

新しいクオリティへ、新しいスピードで。

『リそな』

HUMAN COMMUNICATION

平成22年3月期決算及び今後の経営の方向性について

～真のリテールバンクの確立をめざして～



RESONA

平成22年5月27日

 **リそなホールディングス**  
RESONA

# CONTENTS

(注) 本資料中、グループ各社の名称を下記の通り、省略して記載している箇所がございます。

HD: リそなホールディングス、G合算: 傘下銀行合算、RB: リそな銀行、SR: 埼玉りそな銀行、KO: 近畿大阪銀行

## H22年3月期決算の概況

## 主要ビジネスのアップデート: H22/3期実績とH23/3期計画

## 持続的成長に向けた経営課題への取組み

## 公的資金早期返済に向けた道筋

## 【ご参考資料】

## H22年3月期決算の概況

主要ビジネスのアップデート：H22/3期実績とH23/3期計画

持続的成長に向けた経営課題への取組み

公的資金早期返済に向けた道筋

【ご参考資料】

# H22年3月期決算の総括

## HD連結当期純利益：増益を確保

- 連結当期純利益：1,322億円、前年度比+83億円(+6.7%)
  - ⇒東京本社ビル売却影響除き：前年度比+703億円増益
    - 連結粗利益：6,783億円、前年度比△611億円(△8.2%)
      - ⇒金利低下等に伴う資金利益の減益：前年度比△475億円(△8.6%)
    - 株式関係損益：前年度比+428億円、反動増
    - 与信費用：前年度比△667億円(△36.8%)減少

## 重点ビジネス：コンシューマー事業中心に復調基調

- 「リテール×信託」への取組みが着実に進展
  - 住宅ローン：H22年3月末残高(G合算)は12兆円を突破
  - 投資商品販売：投資信託販売額(G合算)は前年度比約6割増
  - 遺言信託：新規受託件数(RB)は前年度比約6割増
  - 企業年金：新規受託件数(RB)は前年度比略倍増

## 保有資産のクオリティ：着実に改善

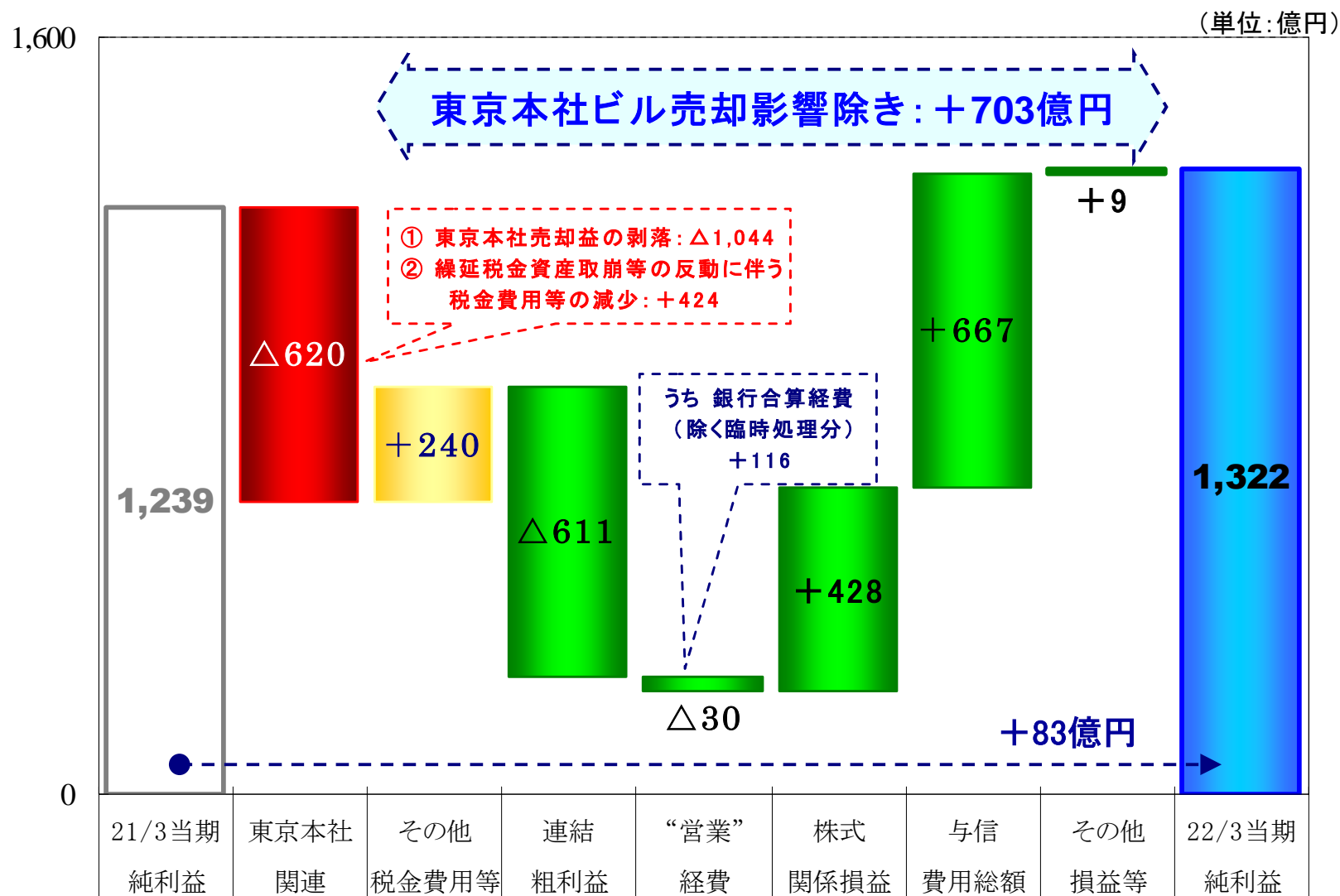
- 開示不良債権(G合算)：前年度末比△89億円、9月末比△427億円減少
- その他有価証券評価差額(G合算)：前年度末比+1,525億円改善

## 公的資金返済を見据えた自己資本施策を展開

- H22年3月末HD連結自己資本比率(速報値)：13.81%、同Tier1比率：10.20%
  - 第9種優先株式の取得・消却⇔新株式(普通株式)発行※
    - ⇒実質的な交換：「自己資本の質向上」と「希薄化リスクの低減」を実現
  - 第6種優先株式の発行※：希薄化リスクを低減しつつ、「返済原資を確保」
    - ※第9種優先株式：取得価額2,712億円、新株式：発行価額(総額)1,036億円、  
第6種優先株式：発行価額(総額)：750億円

# HD連結当期純利益の増減分析

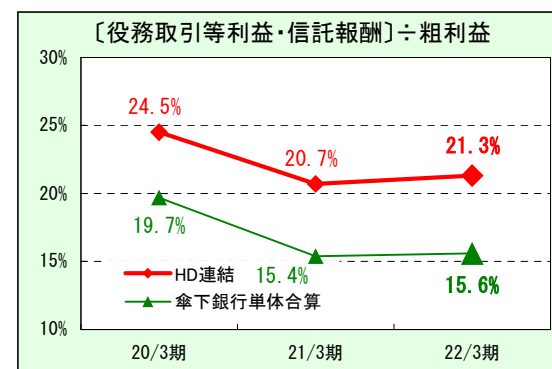
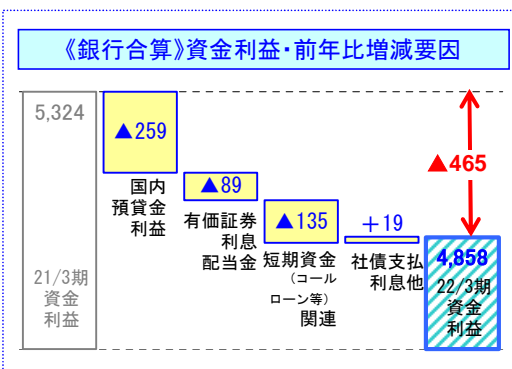
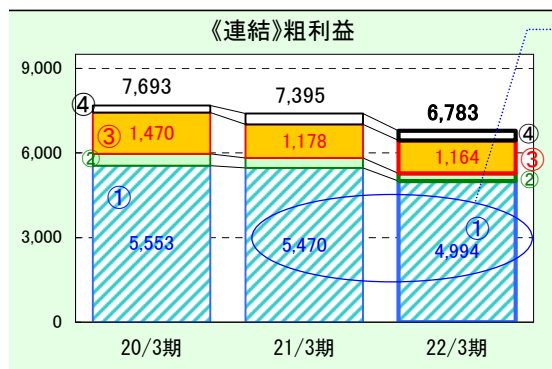
H22/3期の連結当期純利益は前年比+83億円の増益を確保



# H22年3月期の損益概況等

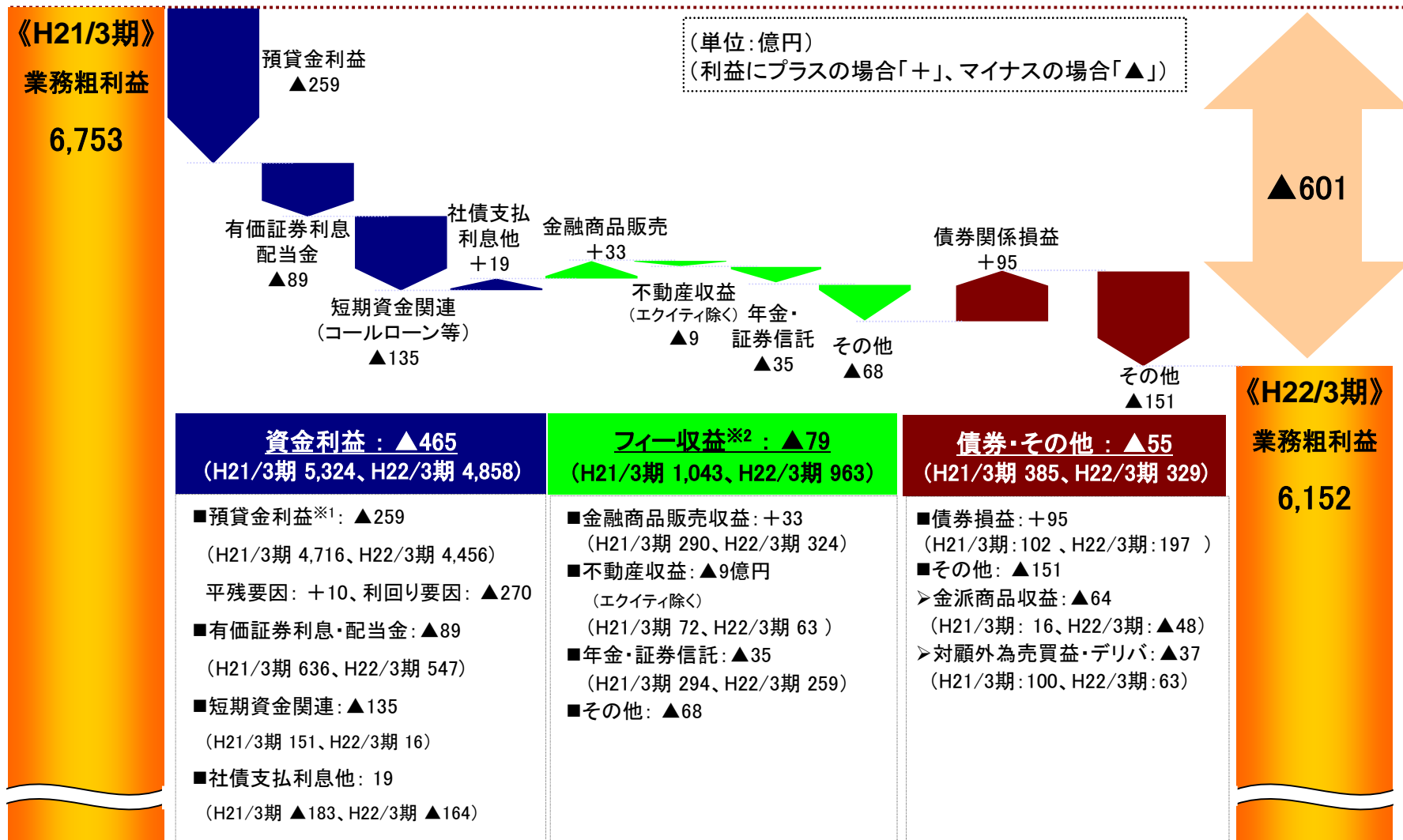
(単位:億円)

	HD《連結》		連単差 (A)-(B)	傘下銀行 単体合算					連単差(A)-(B)の 内訳など 〔概数〕
	(A)	21/3期比		(B)	21/3期比	うち りそな 〈単体〉	埼玉りそな 〈単体〉	近畿大阪 〈単体〉	
粗利益〔連結/業務〕	6,783	△611	+631	6,152	△601	4,066	1,478	607	
① 資金利益	4,994	△475	+136	4,858	△465	2,995	1,357	505	カード66他
うち国内預貸金利益				4,456	△259	2,831	1,176	448	預貸金利益:国内部門、銀行勘定、預金に譲渡性預金を含む
② 信託報酬	287	△66	—	287	△66	287	—	—	
③ 役務取引等利益	1,164	△14	+487	676	△12	477	120	79	保証304、カード161、他
④ その他業務粗利益	337	△55	+8	329	△55	306	0	22	
実勢業務純益				2,646	△480	1,757	714	174	(信託勘定不良債権処理額、一般貸倒引当金繰入額を除いた業務純益)
“営業”経費(△)	3,875	+30	+282	3,592	+31	2,359	784	449	カード138、保証35、のれん償却72他
株式関係損益	6	+428	△36	43	+419	21	7	13	キャピタル△41
うち減損・引当	△74	+227	△43	△31	+226	△29	△1	△0	
与信費用総額(△)	1,146	△667	+325	821	△818	541	167	112	保証239、カード74、他
その他損益等	△8	△1,035	+7	△15	△1,032	8	△16	△7	
税引“前”当期純利益	1,760	△581	△5	1,765	△427	1,195	518	51	
税金費用ほか(△)	438	△664	△96	534	△450	335	221	△22	少数株主利益40、HD他税金費用他△137
税引後当期純利益	1,322	+83	+90	1,231	+23	859	297	74	



# H22年3月期 業務粗利益の増減分析 (G合算)

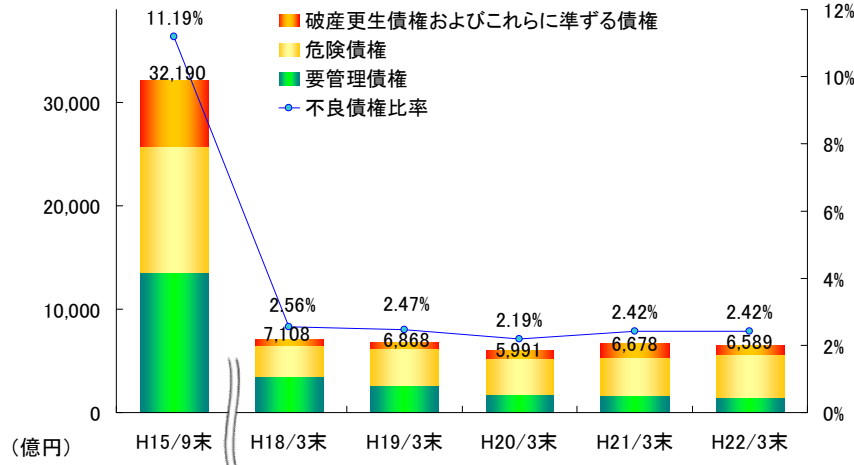
業務粗利益は資金利益の減少を主因とし前期比▲601億円



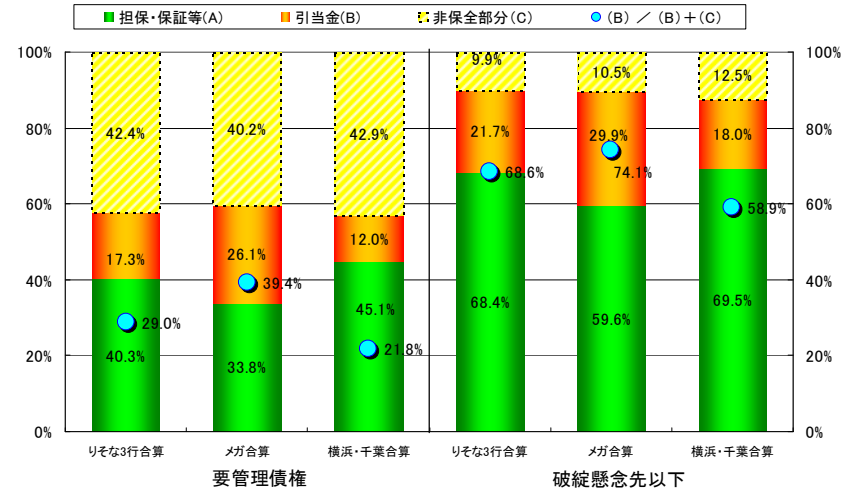
※1 国内業務部門(預金にはNCDを含む) ※2 役務取引等利益+信託報酬

# 財務健全性の維持・向上(貸出資産の状況、G合算)

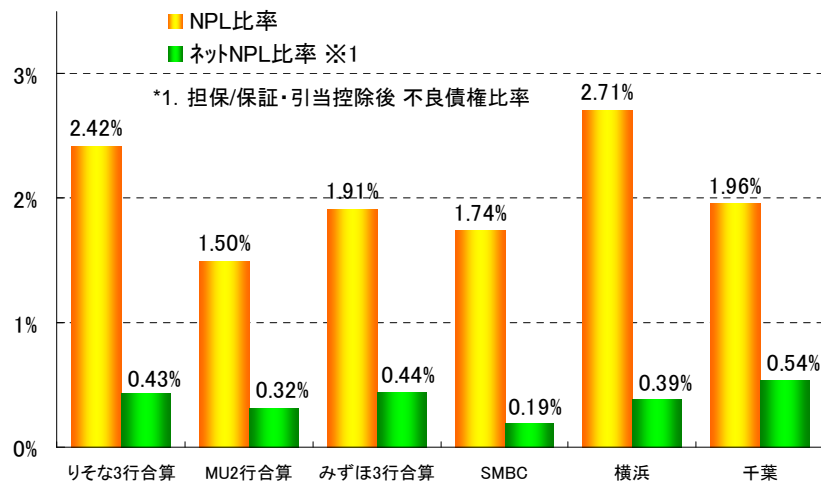
## NPL残高・NPL比率の推移



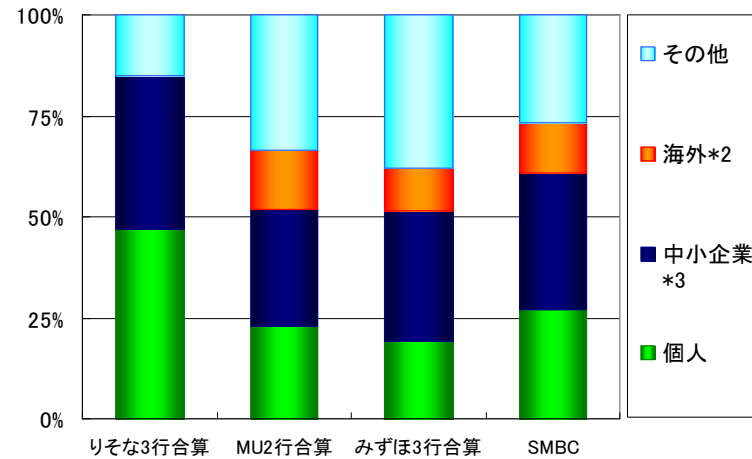
## NPL非保全部分引当率



## ネットNPL比率\*1



## 小口分散



\*2. 海外: 海外店及び特別国際金融取引勘定分 \*3. 中小企業等向け貸出金 一人向けローン



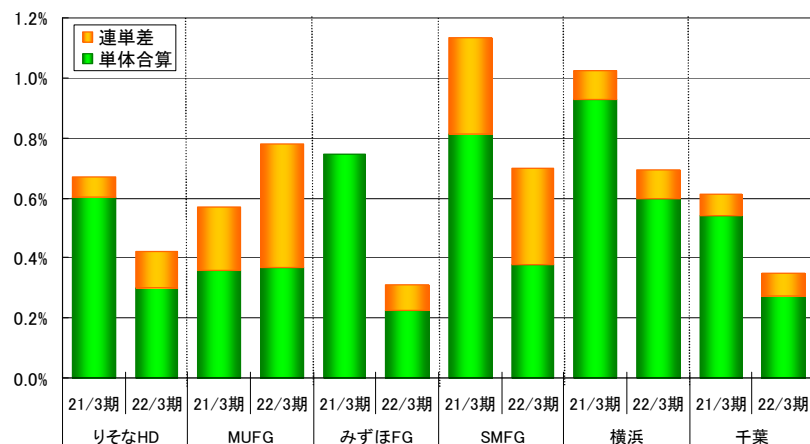
# 財務健全性の維持・向上(与信関連費用の状況、G合算)

## 与信費用の状況

(億円)

科目	H19/上	H19/下	H20/上	H20/下	H21/上	H21/下
一般貸倒引当金	△ 205	46	64	△ 285	95	△ 188
個別貸倒引当金等	343	202	1,201	660	417	495
新規発生	853	813	1,573	1,390	563	592
戻入等(区分改善・回収・オフバラ等)	△ 510	△ 611	△ 372	△ 729	△ 146	△ 97
与信費用総額(△)	138	248	1,265	374	513	307

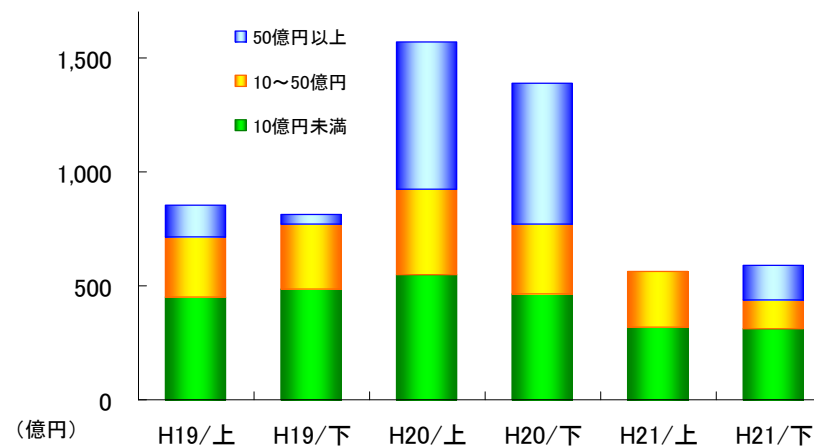
## 連結与信費用比率\*



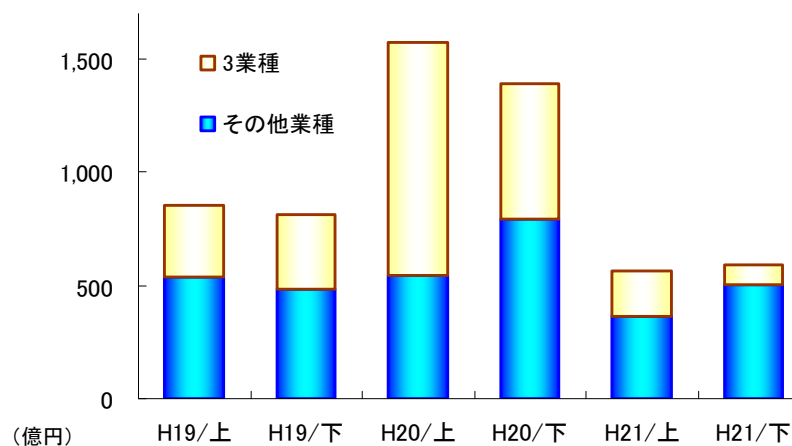
\* 与信費用 / 連結貸出金 + 連結支払承諾見返末残(期初・期末平均)

## 特定業種・大口先からの新規発生が沈静化

### ◆ 期初与信残高別(個別貸倒引当金等)発生状況

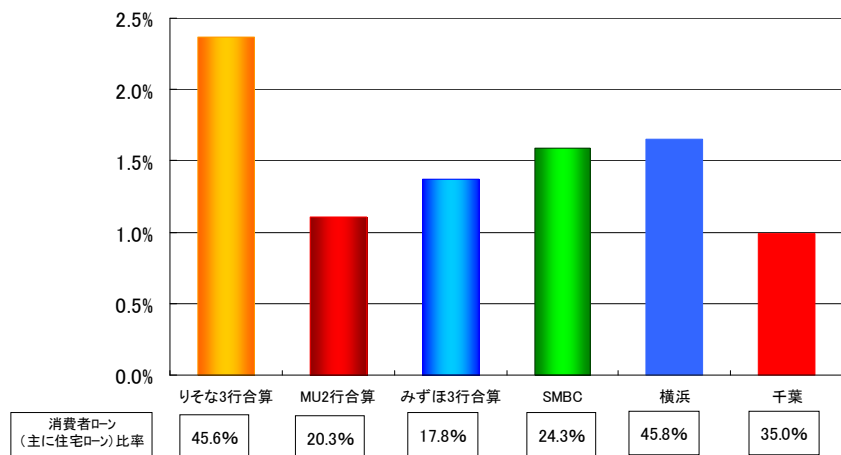


### ◆ 業種別新規(個別貸倒引当金等)発生状況



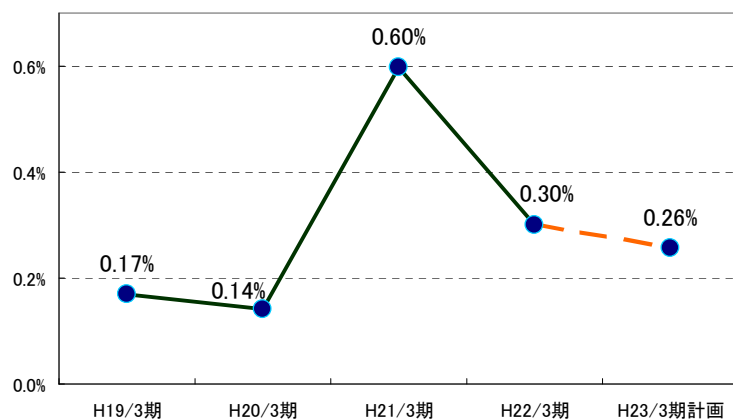
# 財務健全性の維持・向上(将来リスクへの十分な対応)

## 法人等向け与信に対する引当\*水準の比較



\*引当金 / 金融再生法基準与信残高 - 消費者ローン(主に住宅ローン)

## 与信費用比率\*(G合算)の推移



\*与信費用 / 金融再生法基準期初・期末総与信残平均  
(23/3計画は22/3期と同計数を使用)

## 金融円滑化法への対応

### 条件変更等ご相談受入れ体制の整備

- ▶ 金融円滑化の基本方針を策定。G各銀行に各社長を委員長とする『金融円滑化委員会』を設置。
- ▶ 金融円滑化責任者・同リーダーを各営業部に配置。
- ▶ 本部に苦情相談窓口を独立して設置。

### 財務インパクトは限定的

- ◎ 金融円滑化法施行後の監督指針の変更で、正常債権カテゴリーに分類の先にも

### 『従来通りの引当基準』を堅持

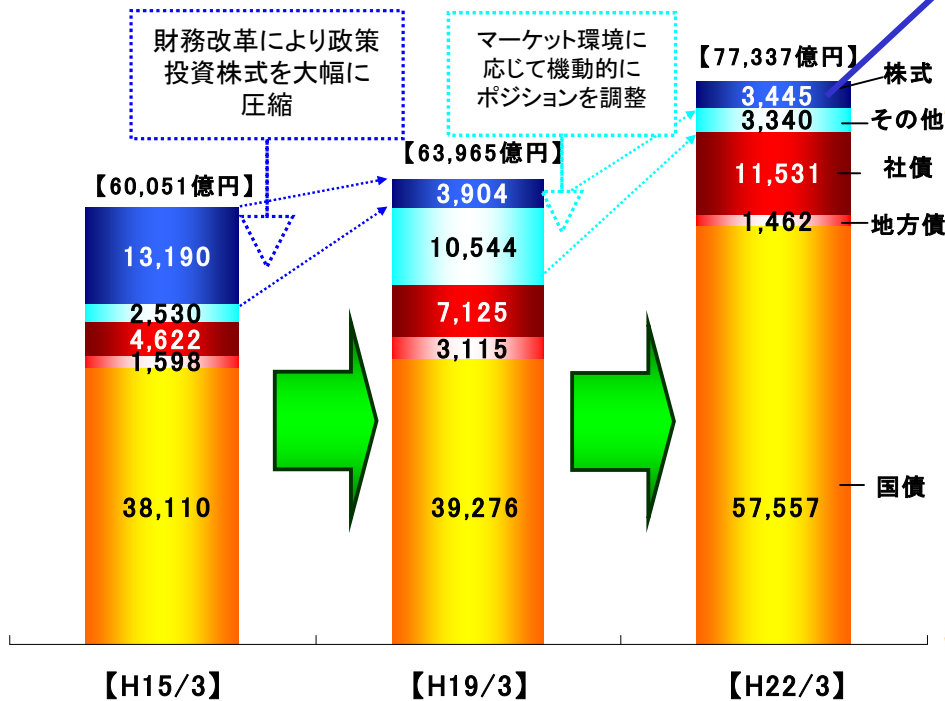
- ※ 「最長1年以内」に実抜計画\*策定見込みの中小企業向け貸出は、条件変更後も開示債権に該当せず。

\* 実現可能性の高い抜本的な経営再建計画

# 財務健全性の維持・向上：有価証券の状況①(HD連結)

## ダウンサイドリスクの少ない有価証券ポートフォリオ

### ■ 残高推移 (「その他有価証券」、取得原価ベース)



### 【政策投資ポートフォリオ】

- 株式
  - 政策投資株式(取得原価)は、H15/3比で1兆円規模の残高を圧縮
  - 更なる残高圧縮に向けた努力を継続

### 【純投資ポートフォリオ】

- 国債
  - デュレーション 2.3年、BPV 17.3億円
  - 変動利付債：5,945億円
- その他
  - 欧州ソブリン債への直接投資なし  
間接保有も僅少⇒PIIGS向けで20億円弱
  - 米国サブプライム関連資産への投資なし
  - 証券化商品はすべて国内組成、90パーセントが住宅ローンを裏付資産とするもの

証券化商品(全て国内)	保有状況
住宅ローン	2,208
商業用不動産	139
その他	99
<b>合計</b>	<b>2,447</b>

### ■ 社債増加要因 (H21/3末比+5,714億円)

- 政府保証債 +3,738億円 : 国債と同じリスクカテゴリーで運用
- 私募債 +3,255億円 : H22/3期より時価のある有価証券へ区分変更 (金融商品に関する会計基準の変更)

# 財務健全性の維持・向上：有価証券の状況 ②(HD連結)

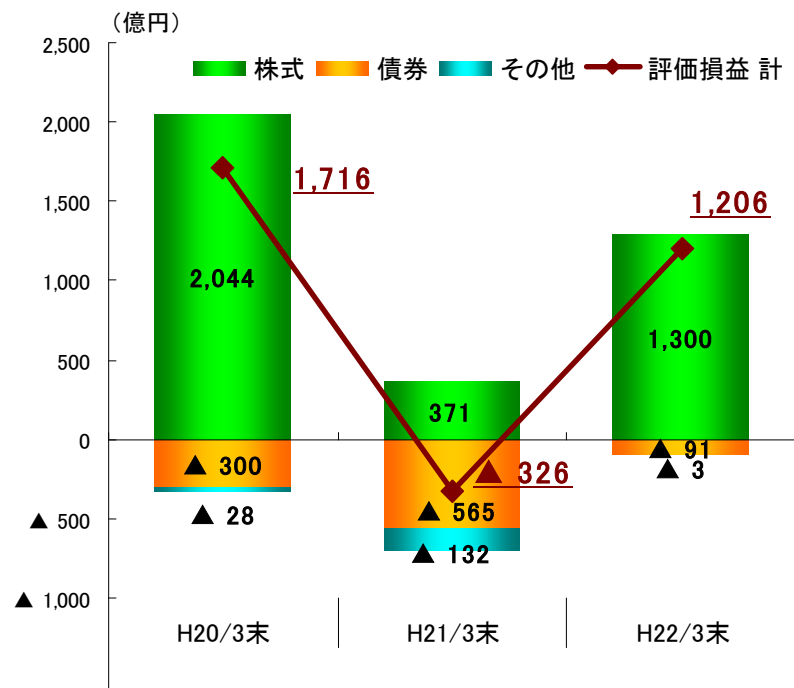
## 「その他有価証券」の評価差額

- H22年3月末の評価差額：1,206億円
  - 変動利付国債は、従前通り市場価格で評価
    - 3月末 評価差額：▲129億円
- (参考) 社内管理ベースの理論価格で試算した場合の変動利付国債の評価差額：+182億円

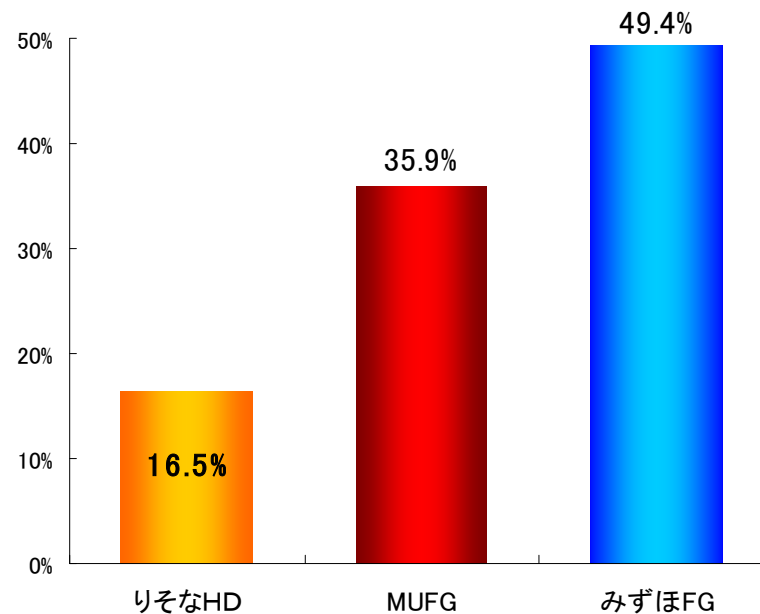
## 保有株式の残高(取得原価)/Tier1資本

- 日経平均損益分岐点株価 7,300円程度
  - 同β値 0.8程度
  - 株式保有\*残高/Tier1資本 16.5%
- ※その他有価証券時価あり株式

### ■ その他有価証券評価差額の推移



### ■ 対Tier1保有株式残高比率の比較(H22/3末)



# 自己資本比率(HD連結)

■ HD連結自己資本比率 H21年3月末 **13.45%** ⇒ H22年3月末 **13.81%** (+ 0.36%)

自己資本の状況				主な変動要因 (21/3末比)																																							
自己資本比率(F-IRB基準)の変動				【分子】 <b>△45億円 (△0.03%)</b>																																							
(単位: 億円、%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Tier 1                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利益剰余金の増加 ..... + 846億円 (+0.43%)</li> <li>・ 資本剰余金の変動 ..... △ 926億円 (△0.46%)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第6種優先株式の発行 ..... + 750億円 (+0.36%)</li> <li>・ 資本剰余金の減少 ..... △1,675億円 (△0.83%)   <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">   第9種優先株式3,500億円の取得(取得価額: 2,712億円)及び消却、普通株式1,036億円の発行   </div> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>➢ Tier 2                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 劣後債務の買入消却等 ..... △151億円 (△0.08%)</li> </ul> </li> </ul>																																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21/3末</th> <th>平成22/3末</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己資本比率</td> <td style="text-align: center;"><b>13.45</b></td> <td style="text-align: center;"><b>13.81</b></td> <td style="text-align: center;">+0.36</td> </tr> <tr> <td>Tier 1比率</td> <td style="text-align: center;">9.92</td> <td style="text-align: center;">10.20</td> <td style="text-align: center;">+0.28</td> </tr> </tbody> </table>					平成21/3末	平成22/3末	増減	自己資本比率	<b>13.45</b>	<b>13.81</b>	+0.36	Tier 1比率	9.92	10.20	+0.28	【分母】 <b>△5,807億円 (+0.37%)</b>																											
	平成21/3末	平成22/3末	増減																																								
自己資本比率	<b>13.45</b>	<b>13.81</b>	+0.36																																								
Tier 1比率	9.92	10.20	+0.28																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>自己資本額</th> <th>平成21/3末</th> <th>平成22/3末</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己資本額</td> <td style="text-align: center;"><b>28,185</b></td> <td style="text-align: center;"><b>28,140</b></td> <td style="text-align: center;">△45</td> </tr> <tr> <td>Tier 1</td> <td style="text-align: center;">20,788</td> <td style="text-align: center;">20,786</td> <td style="text-align: center;">△1</td> </tr> <tr> <td>  うち資本金・資本剰余金</td> <td style="text-align: center;">8,205</td> <td style="text-align: center;">7,279</td> <td style="text-align: center;">△926</td> </tr> <tr> <td>  うち利益剰余金</td> <td style="text-align: center;">12,874</td> <td style="text-align: center;">13,721</td> <td style="text-align: center;">+846</td> </tr> <tr> <td>Tier 2</td> <td style="text-align: center;">7,714</td> <td style="text-align: center;">7,520</td> <td style="text-align: center;">△193</td> </tr> <tr> <td>  うち有価証券の含み益の45%相当額</td> <td colspan="3" style="text-align: center; border: 1px solid gray;">第二(国内)基準の為、算入していません</td> </tr> <tr> <td>  劣後債務</td> <td style="text-align: center;">6,553</td> <td style="text-align: center;">6,401</td> <td style="text-align: center;">△151</td> </tr> <tr> <td>控除項目</td> <td style="text-align: center;">316</td> <td style="text-align: center;">167</td> <td style="text-align: center;">△148</td> </tr> </tbody> </table>				自己資本額	平成21/3末	平成22/3末	増減	自己資本額	<b>28,185</b>	<b>28,140</b>	△45	Tier 1	20,788	20,786	△1	うち資本金・資本剰余金	8,205	7,279	△926	うち利益剰余金	12,874	13,721	+846	Tier 2	7,714	7,520	△193	うち有価証券の含み益の45%相当額	第二(国内)基準の為、算入していません			劣後債務	6,553	6,401	△151	控除項目	316	167	△148	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ リスク・アセット                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信用リスク・アセットの減少 ..... △4,884億円 (+0.32%)                                      ~ 住宅ローンの平均リスク・ウェイト低下、法人向け貸出金の残高減少等による</li> </ul> </li> </ul>			
自己資本額	平成21/3末	平成22/3末	増減																																								
自己資本額	<b>28,185</b>	<b>28,140</b>	△45																																								
Tier 1	20,788	20,786	△1																																								
うち資本金・資本剰余金	8,205	7,279	△926																																								
うち利益剰余金	12,874	13,721	+846																																								
Tier 2	7,714	7,520	△193																																								
うち有価証券の含み益の45%相当額	第二(国内)基準の為、算入していません																																										
劣後債務	6,553	6,401	△151																																								
控除項目	316	167	△148																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>リスク・アセット</th> <th>平成21/3末</th> <th>平成22/3末</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リスク・アセット</td> <td style="text-align: center;"><b>209,448</b></td> <td style="text-align: center;"><b>203,641</b></td> <td style="text-align: center;">△5,807</td> </tr> <tr> <td>  信用リスク・アセット</td> <td style="text-align: center;">196,083</td> <td style="text-align: center;">191,198</td> <td style="text-align: center;">△4,884</td> </tr> <tr> <td>  オペレーショナル・リスク・アセット</td> <td style="text-align: center;">13,365</td> <td style="text-align: center;">12,443</td> <td style="text-align: center;">△922</td> </tr> </tbody> </table>				リスク・アセット	平成21/3末	平成22/3末	増減	リスク・アセット	<b>209,448</b>	<b>203,641</b>	△5,807	信用リスク・アセット	196,083	191,198	△4,884	オペレーショナル・リスク・アセット	13,365	12,443	△922	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <b>&lt;参考情報&gt;</b> </div>																							
リスク・アセット	平成21/3末	平成22/3末	増減																																								
リスク・アセット	<b>209,448</b>	<b>203,641</b>	△5,807																																								
信用リスク・アセット	196,083	191,198	△4,884																																								
オペレーショナル・リスク・アセット	13,365	12,443	△922																																								
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 連結自己資本比率(第一基準) : 14.20%</li> <li>■ Tier1比率(第一基準) : 10.09%</li> <li>■ その他有価証券の評価差額金 : +1,206億円</li> <li>■ 繰延税金資産の純額/Tier1資本 : 11.90%</li> </ul>																																											
※22/3末は速報値です																																											

# H23年3月期 通期の業績予想

(単位: 億円)

	HD《連結》		
	(中間期予想)	[通期予想]	前年実績比
連結経常収益	4,150	<b>8,300</b>	△451
連結経常利益	830	<b>1,700</b>	+177
<b>連結当期(中間)純利益</b>	600	<b>1,350</b>	+28

	HD《単体》		
	(中間期予想)	[通期予想]	前年実績比
営業収益	165	<b>310</b>	△80
営業利益	135	<b>250</b>	△76
経常利益	135	<b>240</b>	△86
<b>当期(中間)純利益</b>	145	<b>250</b>	△99

期末自己資本比率見込	13%台後半
------------	--------

23年3月期末普通配当予想	10円
23年3月期末優先配当予想	所定の配当

	銀行合算【概数】			りそな			埼玉りそな			近畿大阪		
	(中間期予想)	[通期予想]	前年実績比	(中間期予想)	[通期予想]	前年実績比	(中間期予想)	[通期予想]	前年実績比	(中間期予想)	[通期予想]	前年実績比
業務粗利益	2,980	<b>6,040</b>	△112	1,940	3,950	△116	740	1,485	+7	300	605	△2
経費(△)	1,730	<b>3,440</b>	△65	1,140	2,250	△58	385	770	+6	210	415	△17
実勢業務純益	1,250	<b>2,600</b>	△46	800	1,700	△57	355	715	+1	90	190	+16
経常利益	830	<b>1,700</b>	+174	525	1,100	+86	300	570	+81	10	40	+18
<b>税引“前”当期(中間)純利益</b>	880	<b>1,870</b>	+105	570	1,250	+55	295	560	+42	20	60	+9
税引後当期(中間)純利益	580	<b>1,300</b>	+69	(連結納税制度を採用しております)								

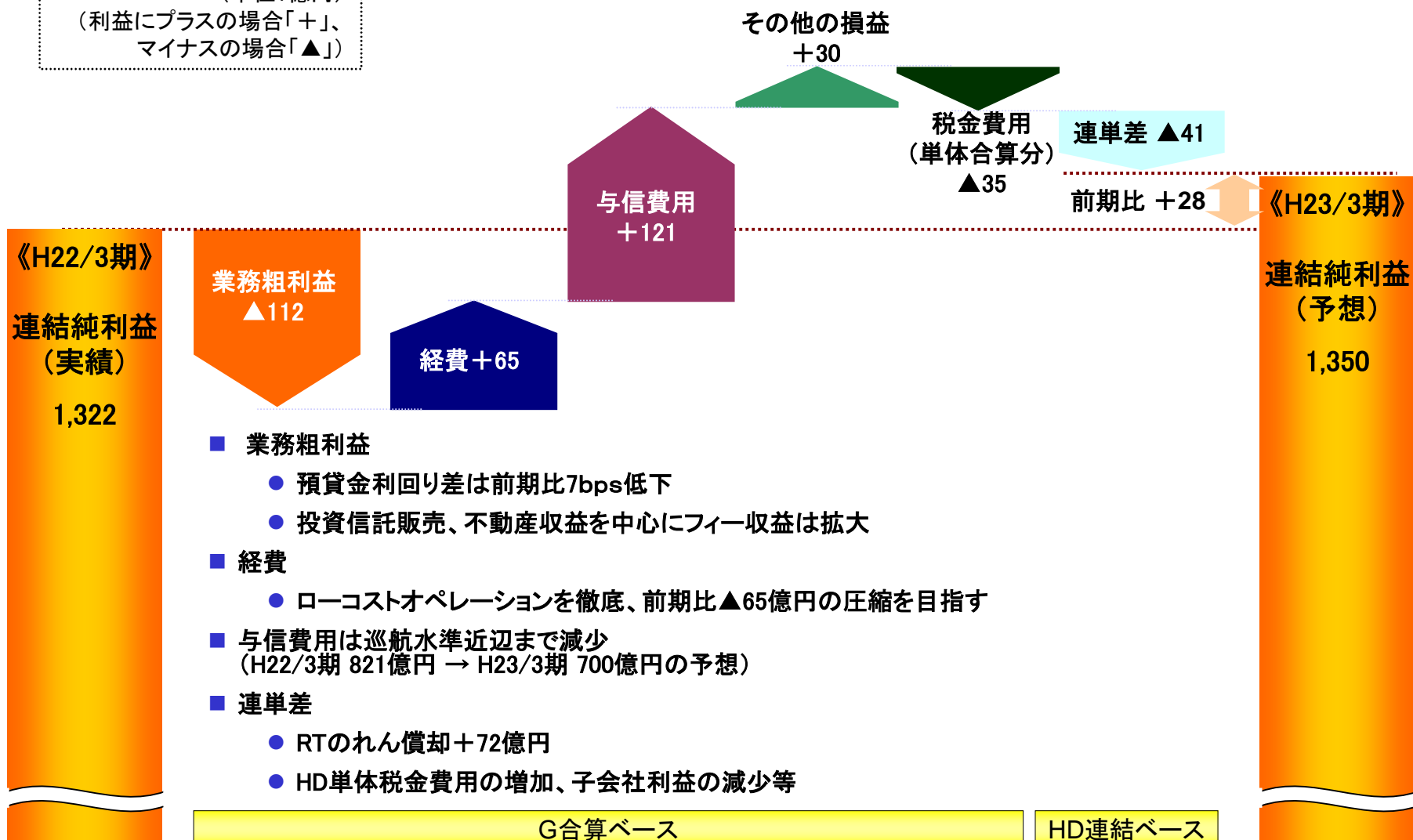
株式関係損益	20	<b>40</b>	△3	20	40	+19	—	—	△7	—	—	△13
与信費用総額(△)	350	<b>700</b>	△121	235	470	△71	55	125	△42	60	105	△7

期末自己資本比率見込	《連結》 11%台前半	《単体》 10%台半ば	《連結》 11%台前半
------------	----------------	----------------	----------------

# H23年3月期 業績予想の増減要因

H23/3期 連結当期純利益は1,350億円を予想(前期比+28億円)

(単位:億円)  
(利益にプラスの場合「+」、  
マイナスの場合「▲」)



G合算ベース

HD連結ベース

---

H22年3月期決算の概況

**主要ビジネスのアップデート：H22/3期実績とH23/3期計画**

持続的成長に向けた経営課題への取組み

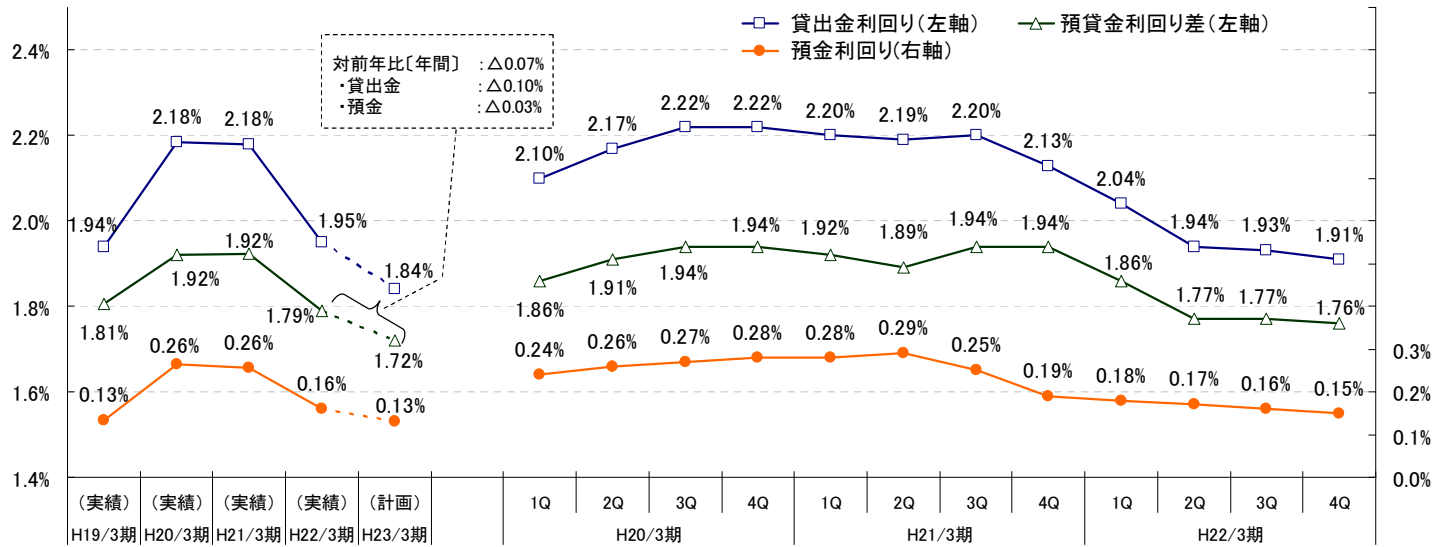
公的資金早期返済に向けた道筋

【ご参考資料】



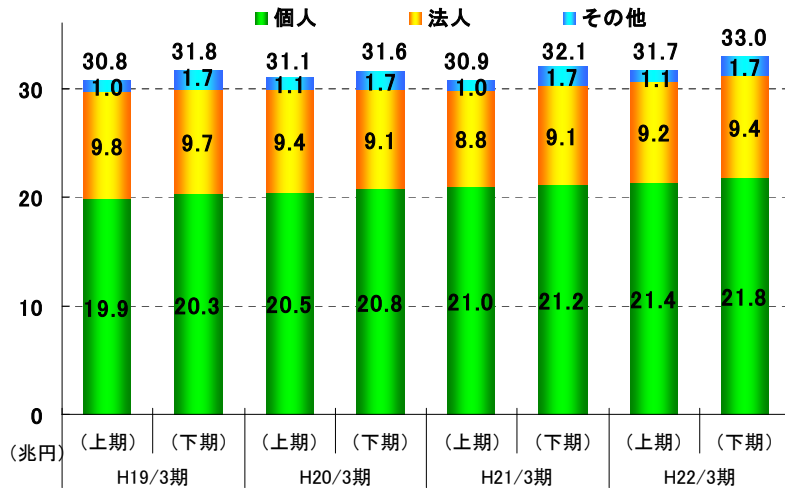
# 預金・貸出金の全体トレンド(G合算)

## 預貸金利回り・利回差のトレンド

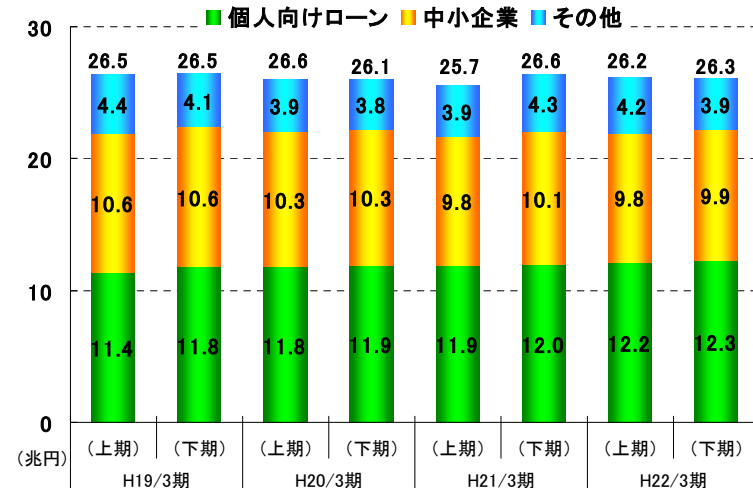


(国内銀行勘定)

## 預金残高のトレンド(末残)

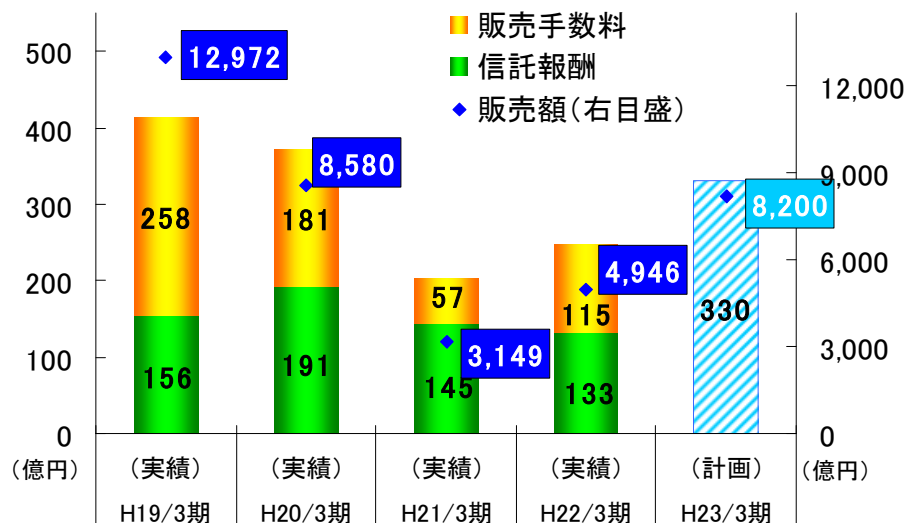


## 貸出金残高のトレンド(末残)

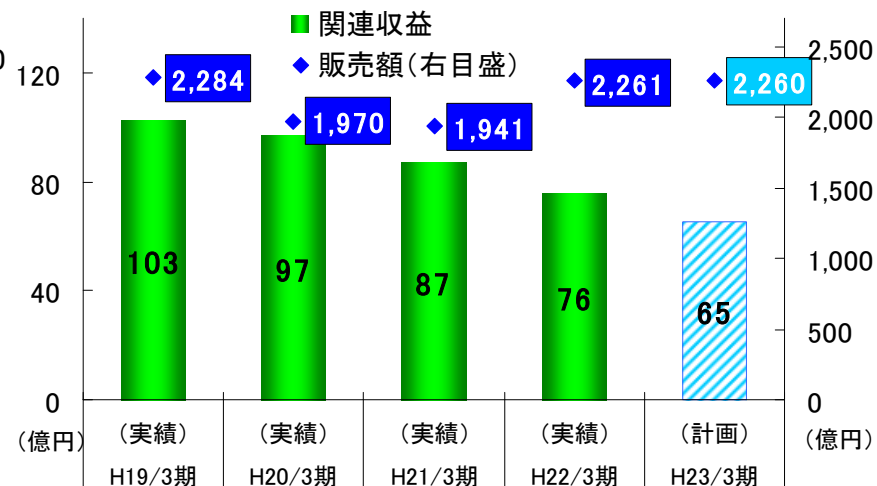


# フィービジネス

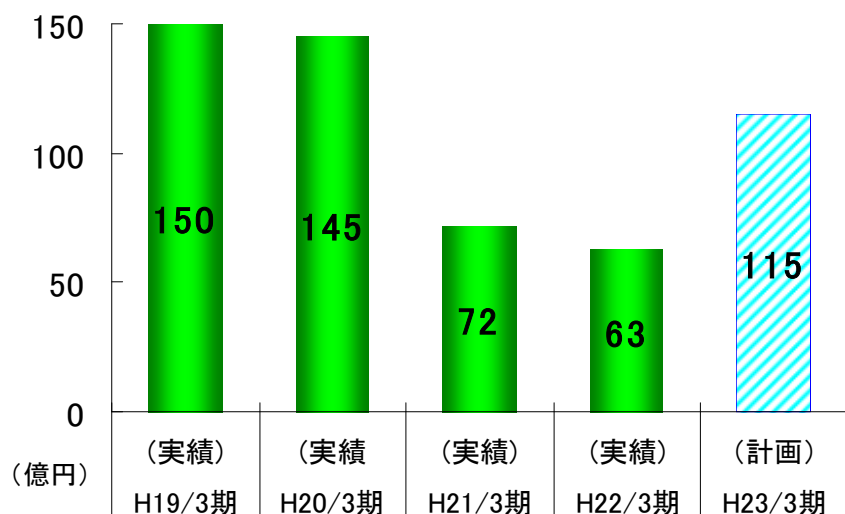
## 投信販売・収益実績の推移(G合算)



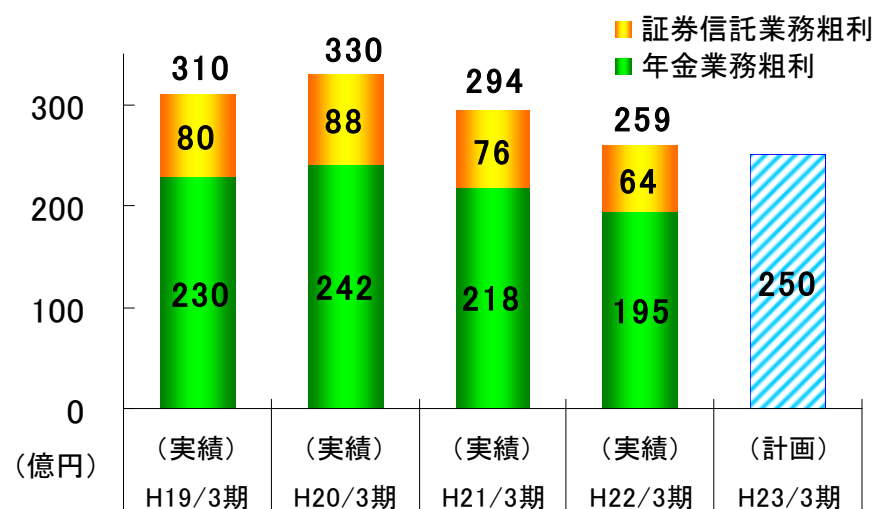
## 年金保険販売・収益実績の推移(G合算)



## 不動産業務収益<sup>\*1</sup>の推移(RB)



## 年金・証券信託業務の粗利益<sup>\*2</sup>推移 (RB)

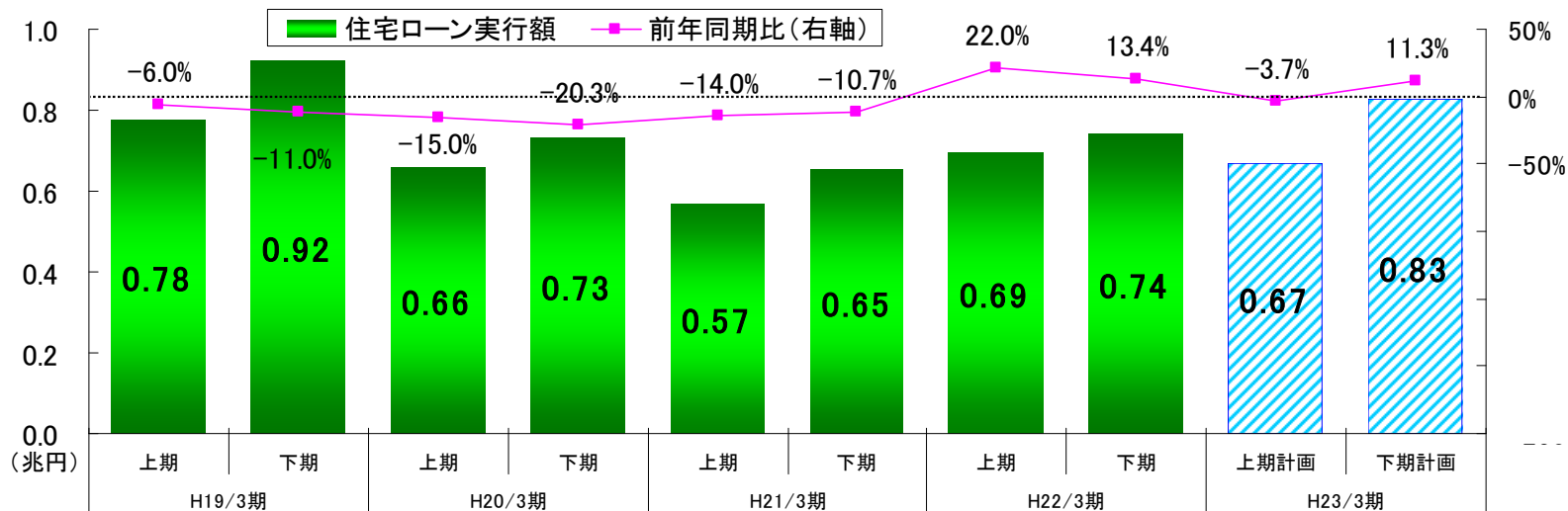


\*1 不動産ファンド出資関連収益除く

\*2旧BRTからRBへ支払われていた信託代理店手数料分を加算し、補正

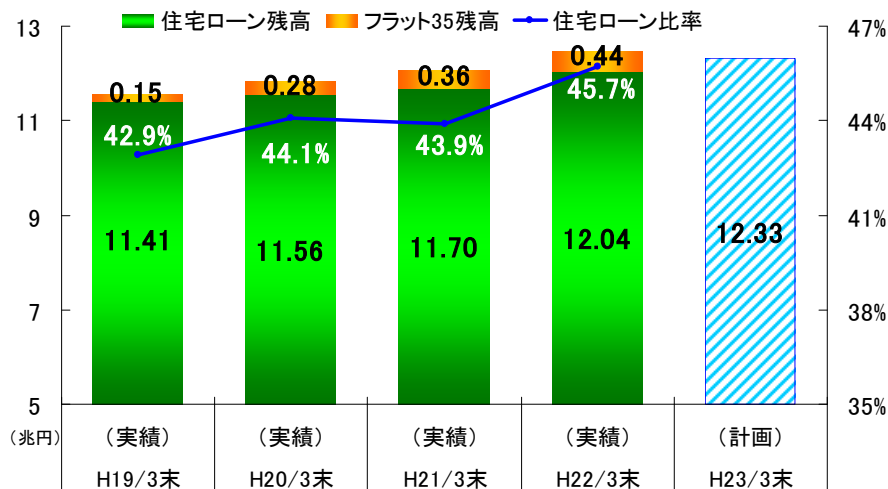
# 住宅ローン実行額はリーマンショック前の水準に回復

## 住宅ローン実行額の推移



※ 社内管理計数(含むフラット35)

## 住宅ローン残高の推移



## 代位弁済比率・最終ロス率

**代位弁済率※1**

0.5%程度で低位推移

**最終ロス率※2**

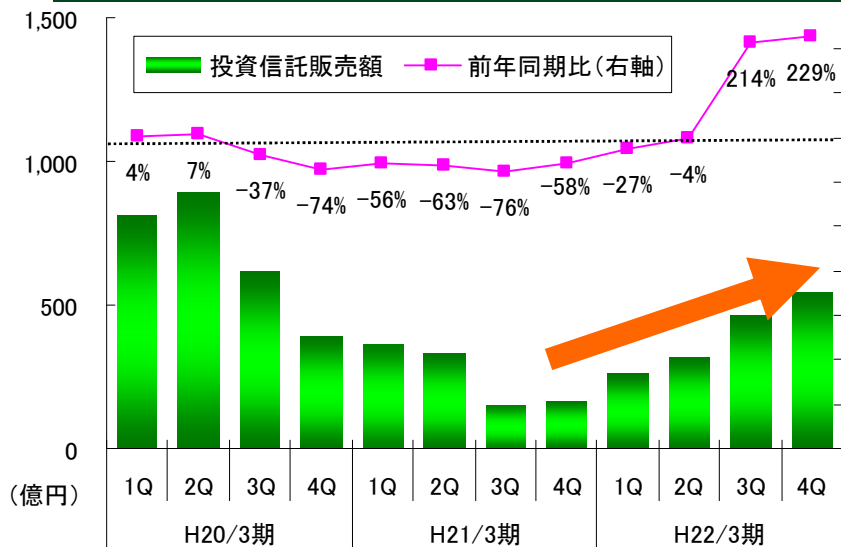
0.2%程度で低位推移

※1 住宅ローン保証子会社による代位弁済率

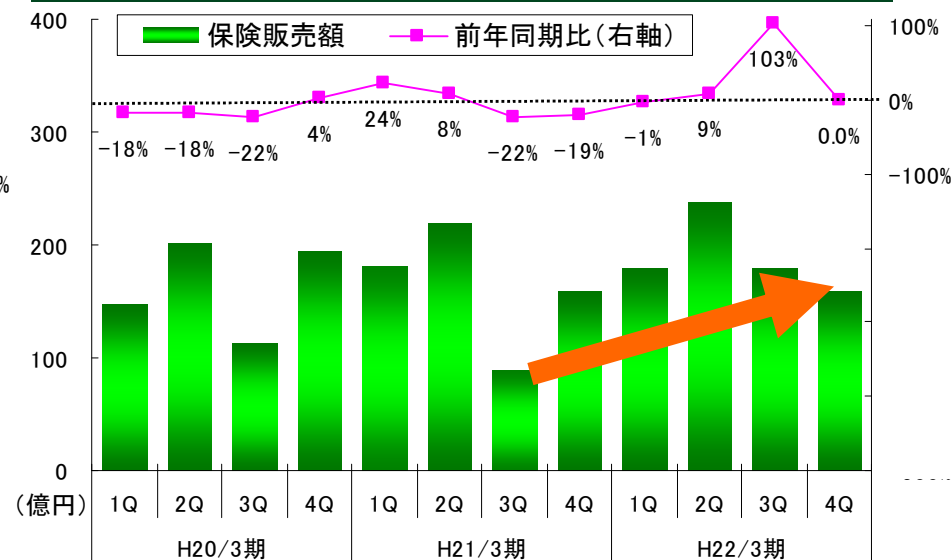
※2 住宅ローン保証子会社代位弁済率 × (1 - 代位弁済後回収率)

# 投信、保険販売額はリーマンショック前の水準に回復

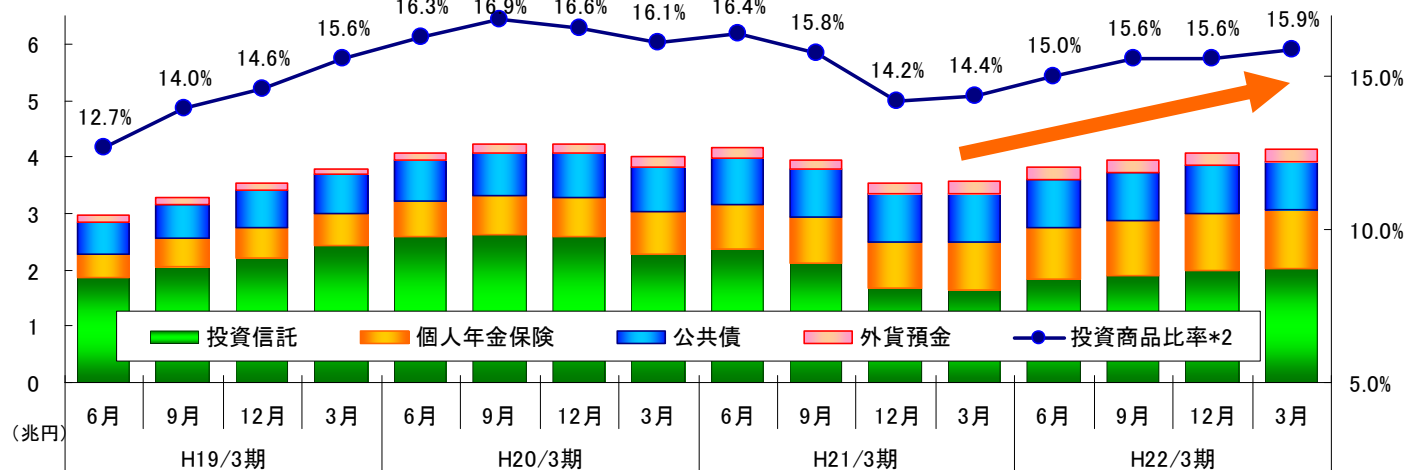
## 投資信託販売額の推移(四半期・月平均)



## 年金保険販売額の推移(四半期・月平均)



## 個人向け投資商品残高の推移



\*1 社内管理計数 \*2 投資商品残高 / (投資商品 + 個人預金)

---

H22年3月期決算の概況

主要ビジネスのアップデート：H22/3期実績とH23/3期計画

**持続的成長に向けた経営課題への取組み**

公的資金早期返済に向けた道筋

【ご参考資料】

# 健全なバランスシートに健全な収益 (1) … BS

## 安定した預金によりファイナンスされた健全な資産ポートフォリオ

りそなホールディングス 連結バランスシート  
(H22年3月末現在)

### 【健全な貸出金ポートフォリオ】

- 分散が効いた貸出金ポートフォリオ
  - 住宅ローン比率: 45.7%
  - 法人貸出ポートフォリオも約9万先の中堅・中小企業に分散
- ネット不良債権比率: 0.43%

### 【保守的に管理された有証ポートフォリオ】

- 大半は日本国債 (デュレーション: 2.3年)
- 保有株式に係るダウンサイドリスクは限定的
  - 保有株式/T1資本: 約16.5%
  - 損益分岐日経平均株価: 7,300円程度
- 米国サブプライム関連資産の保有なし

貸出金 26.2 兆円 (64%)	預金 32.9兆円 (81%)
うち住宅ローン 12.04兆円 (銀行合算)	
有価証券 8.9 兆円 (22%)	その他負債 5.5兆円 (13%)
その他資産 5.6 兆円 (14%)	純資産 2.3 兆円 (6%)

### 【安定した調達構造】

- 強固なリテール預金基盤
  - 1,300万のリテール預金口座
  - 国内預金ファンディングのうち約70%がリテール預金
- 低いファンディングコストを維持
  - 国内預金の平均調達コスト: 0.16% (H21年度)
  - 国内預金ファンディングのうち約58%がローコストの流動性預金
- 極めて低いインターバンク調達や証券化への依存度
- 預貸率: 80%

### 【高い規制資本の充実度】

- 規制資本比率: 13.81%
- Tier 1 比率: 10.20%
- DTA(純額)/Tier 1 : 11.90%

会計上の総資産: 40.7兆円 (TAA) (100%)

リスク調整後資産: 20.4 兆円 (RWA) (Basel II F-IRBベース)

RWA/TAA 倍率: x 0.5 倍

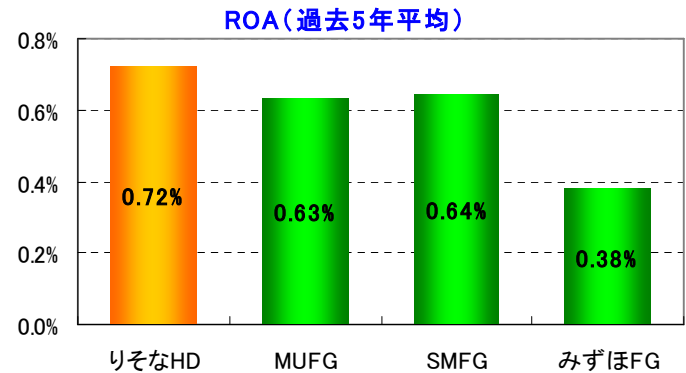
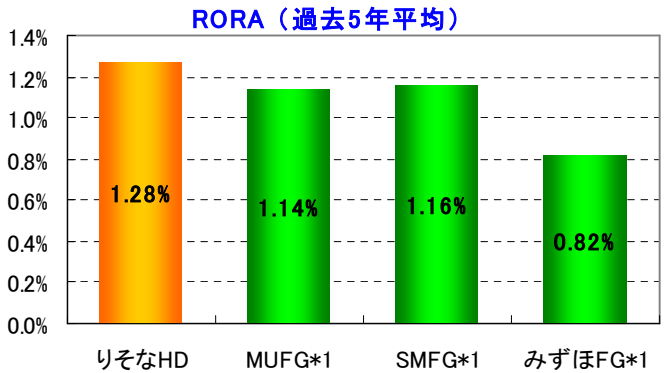
# 健全なバランスシートに健全な収益 (2) … PL

経費、与信費用コントロールを通じ安定的なボトムライン収益の確保を目指す



- 小口分散された良質な貸出資産を中心に安定したストック収益を確保
  - リスクプライシングの浸透努力を継続(スプレッド低下圧力を減殺)
  - ALM管理高度化に伴う金利リスク テイク余力
  - フィー収益の拡大を通じたRORA、ROAの改善
  - マーケット環境に応じた機動的な純投資運営
- 
- H15/3期比 連結営業経費 削減額 2,101億円(同削減率 35.2%)
  - 連結営業経費率 50%を目標とした運営を継続 (H22/3期実績:57%)
- 
- セクター分散、小口分散を通じダウンサイドリスクを極小化
- 
- 政策保有ポートフォリオは削減努力を継続
  - 保守的なリスク限度額の範囲内でETF等流動性の高い商品を主軸に位置付け

**優位性のある  
RORA/ROA**  
〔与信費用・株式  
関係損益考慮後  
業務純益ベース〕

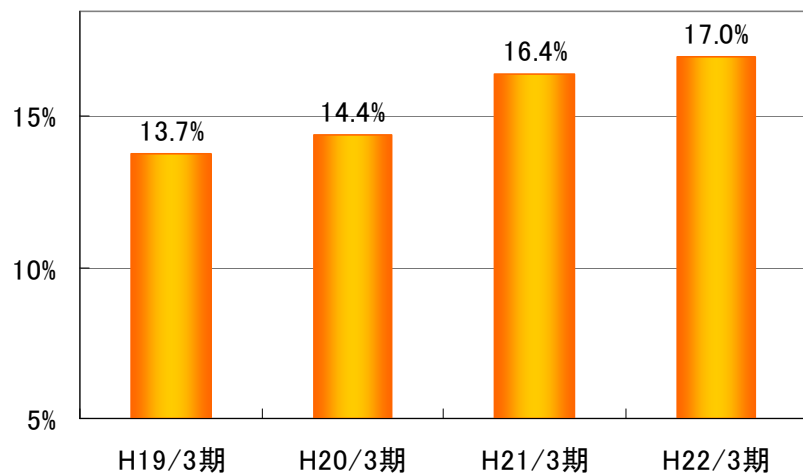


\*1 メガバンクグループはH21/3期より先進的的内部格付手法(A-IRB)に基づきリスクアセットを算出。

# 住宅ローン・消費性ローン:未開拓市場への挑戦

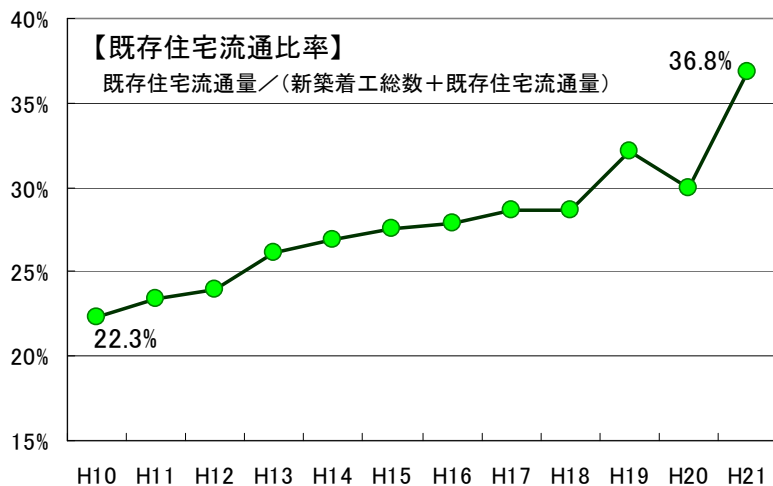
## 中古マーケットへの取組み強化

➤ 住宅ローン新規申込に占める中古物件の割合\*



\* リソナ保証(株)保証案件における中古物件の申込割合

➤ 存在感を増す中古住宅市場



※ 不動産流通経営協会「FRK既存住宅流通量推計結果」について 2010.3よりデータ抜粋

## 住宅ローン顧客基盤を生かしたクロスセルを展開

➤ 住宅ローン顧客基盤 50万件超

⇒ 優位性の高い各種ローンを提案

➤ 環境・政策をふまえて戦略的に新商品を投入

新商品を順次投入(H22/4~6月(RB予定))

### 外部環境の変化

➤ 環境意識の高まり  
⇒リフォーム・中古  
市場の活性化  
⇒エコカー減税

➤ 高齢社会の到来

➤ 個人のライフプラン  
の多様化

### 新規投入(予定)商品

新リフォームローン  
(リフォーム瑕疵保険  
利用者に金利優遇)

エコカーローン  
(エコカー金利優遇)

リバースモーゲージ  
(リフォーム資金限定)  
(住宅融資保険利用)

新プライベートローン  
(JCB保証)

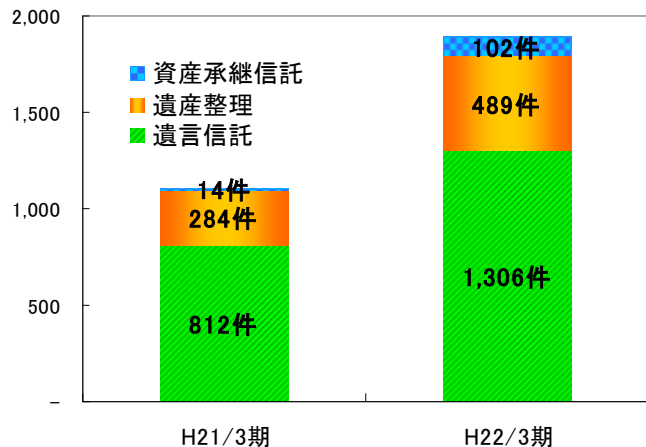
高額極度カードローン  
(外部保証)



# 「リテール×信託」ブランドの確立

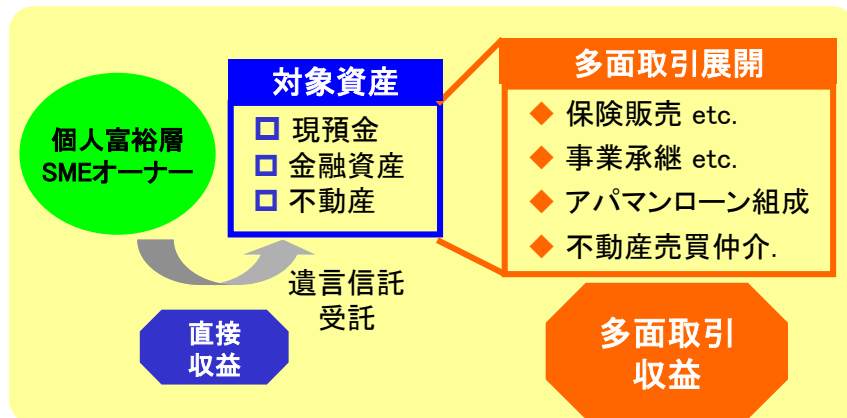
## 遺言信託・遺産整理・資産承継(個人向け)

### ■ 新規受託件数 (RB)



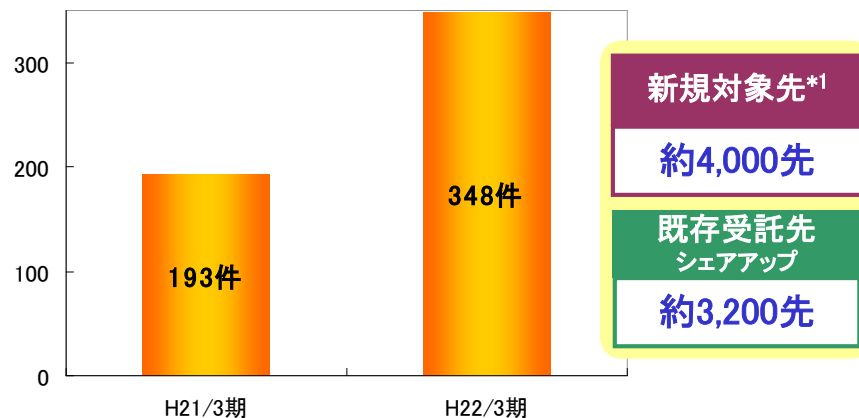
### ■ 遺言信託取引を契機とする多面的取引を展望

- 遺言保管件数 : 約11千件
- 執行対象財産額 : 約2兆円(金融資産40%、不動産60%)
- 平均保管期間 : 6年程度
- 執行報酬 : 1%程度(直接報酬のみ)



## 年金信託・信託ソリューション(法人向け)

### ■ 企業年金新規受託件数 (RB)



### ■ 信託ソリューション商品ラインアップ拡充(法人向け)

**企業の経営課題・ニーズ**

- IFRS対応 (企業財務・退職給付)
- 資産運用・リスクコントロール
- 環境への配慮

**信託ソリューション (H21年度リリース)**

- IFRSを踏まえた企業年金コンサルティング
- 株式流動化信託
- 持株会支援型ESOP
- 仕組債特金・TAAファントラ
- 排出権の信託

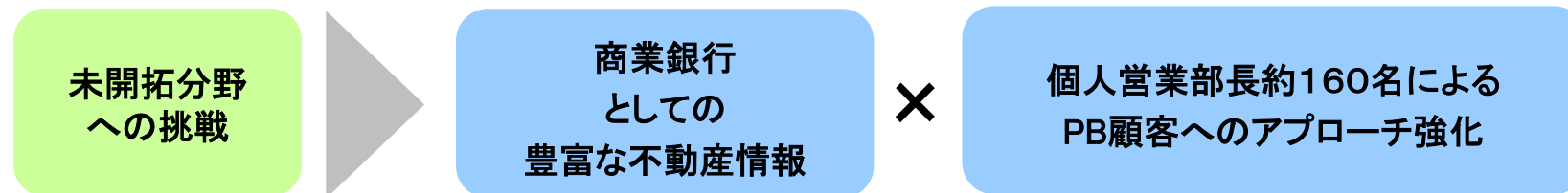
\*1. メイン・準メインで従業員100名以上の法人取引先

# 「リテール×信託」の展開事例

## 《事例1》企業年金で培った運用ノウハウを投資信託販売で活用



## 《事例2》富裕層向け不動産ビジネスの本格展開

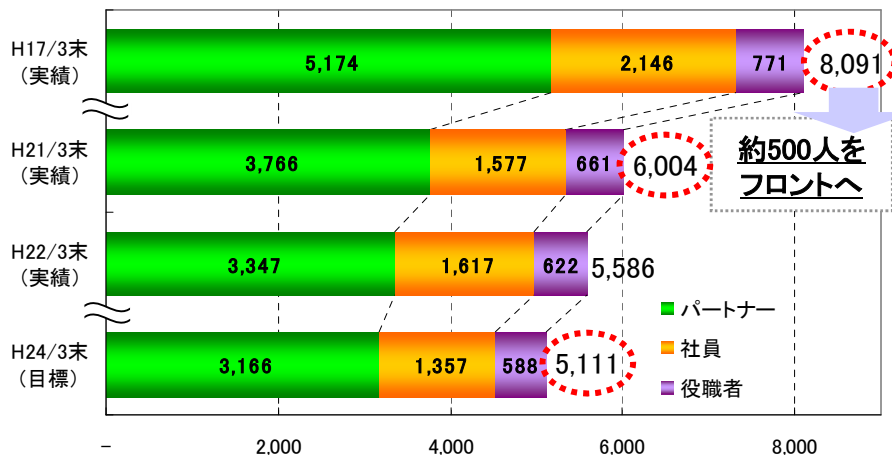


りそな銀行 = フルラインの信託業務を併営する顧客数・店舗数 No.1の商業銀行

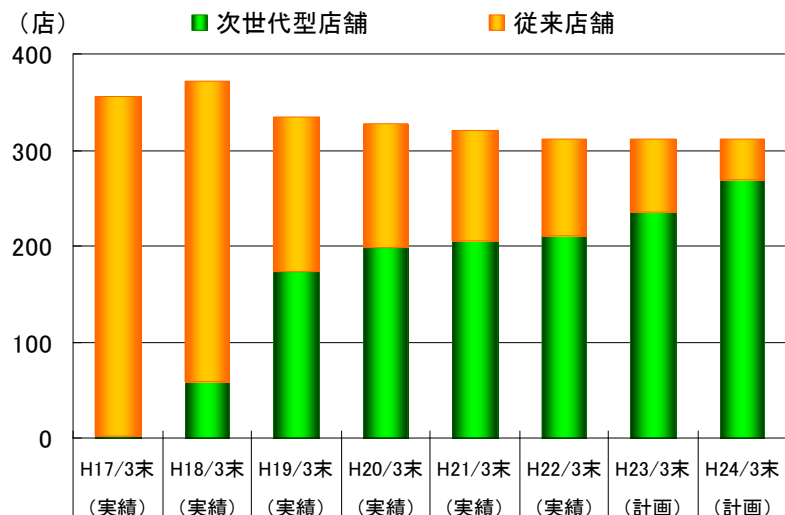
# オペレーション改革の成果と今後の展望 (RB)

## 営業店を事務から開放し、「セールスの場」に

### ▶ 事務人員の推移(営業店+サポートオフィス、センター)



### ▶ お客さま目線の次世代型店舗を拡充



## 次期システムの導入(H22/11月～H23/7月)

### 狙い・事務人員削減効果

#### 【狙い】

- ▶ 印鑑・伝票レス取引の実現
- ▶ コンプライアンス強化
- ▶ 事務の更なる効率化、堅確化

#### 【事務人員削減効果】

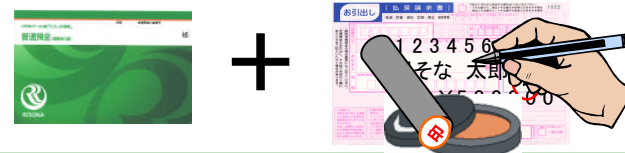
(営業店+事務センター)  
RB+SR 計▲1,000人  
(H21/3比・H24/3着地)

### サービス向上・事務効率化

#### フロント(営業店相談ブース)

#### 現状

～通帳、印鑑、伝票で『心配』『面倒』～



#### サービス向上

#### 導入後

～生体キャッシュカードで『安心』『便利』～



#### ミドル(営業店後方) ⇒ バック(事務センター)

#### 現状

伝票仕分け・センターへ持出⇒伝票に基づく入力

#### 事務効率化

#### 導入後

スキャナーで伝票読取(=持出不要)  
⇒ペーパーレス、伝票イメージに基づく入力

# 次世代型店舗の一例



## 次世代型店舗

H18/3期より順次移行開始

- ▶ 従来の事務スペースをお客さまのためのご相談・お取引スペースに変革
- ▶ 事務はサポートオフィス等に集約（セールス特化の店舗特色）
- ▶ Quick-Naviを活用した迅速な取引

H21/9月 スマート店舗一号店オープン

- ▶ 小規模の個人特化型店舗
- ▶ 次世代型店舗と同様、セールス特化の店舗特色を前面に
- ▶ 「3ない3レス」の事務処理を具現化
- ▶ 「カード・ATM取引100%」を宣言

## 次次世代型店舗(スマート店舗)



---

## H22年3月期決算の概況

## 主要ビジネスのアップデート：H22/3期実績とH23/3期計画

## 持続的成長に向けた経営課題への取組み

## 公的資金早期返済に向けた道筋

## 【ご参考資料】

# 公的資金の返済アプローチ

## 残存する公的資金の明細と返済アプローチ

(単位: 億円)	発行	一斉転換 (初回コール)	金額	金額	返済額 (2) - (1)
			H15/9末 (1)	H22/3末 (2)	
公的資金合計			31,280	20,852	▲ 10,427
優先株式			25,315	18,235	▲ 7,080
早期健全化法			8,680	1,600	▲ 7,080
乙種 <b>済</b>	H11/03	H21/04	4,080	-	▲ 4,080
丙種	H13/04	H27/04	600	600	-
戊種 <b>済</b>	H11/03	H21/12	3,000	-	▲ 3,000
己種	H11/03	H26/12	1,000	1,000	-
預金保険法			16,635	16,635	-
第1種	H15/07	定めなし	5,500	5,500	-
第2種	H15/07	定めなし	5,635	5,635	-
第3種	H15/07	定めなし	5,500	5,500	-
劣後ローン <b>済</b>			3,000	-	▲ 3,000
普通株式	H15/07	定めなし	2,964	2,616	▲ 347

### 優先株式

- 利益剰余金と新規優先株式の資金を活用した買入消却が基本アプローチ
- 早健法優先株式で残る丙種、己種は潜在株式への対応を実現  
(希薄化リスクを回避)
- 預保法優先株の買入消却は健全性を大きく損なわない前提で実施していく方針

### 普通株式

- 市場環境を見極めつつ、売出し、売出し以外の方法による返済について関係当局との協議を進め、可能な限り早期に返済を実現する方針

## H22/3末現在 1兆5,114億円の返済原資を確保

公的資金優先株式 (注入額残高 18,235億円) … 丙種・己種優先株式を含む残高

合算利益剰余金	13,345億円	その他 資本剰余金	1,768億円	自己株 (資本控除)	852億円
合算剰余金残高 15,114億円 (上記注入額残高の約82%)					← 今後の利益蓄積等により確保

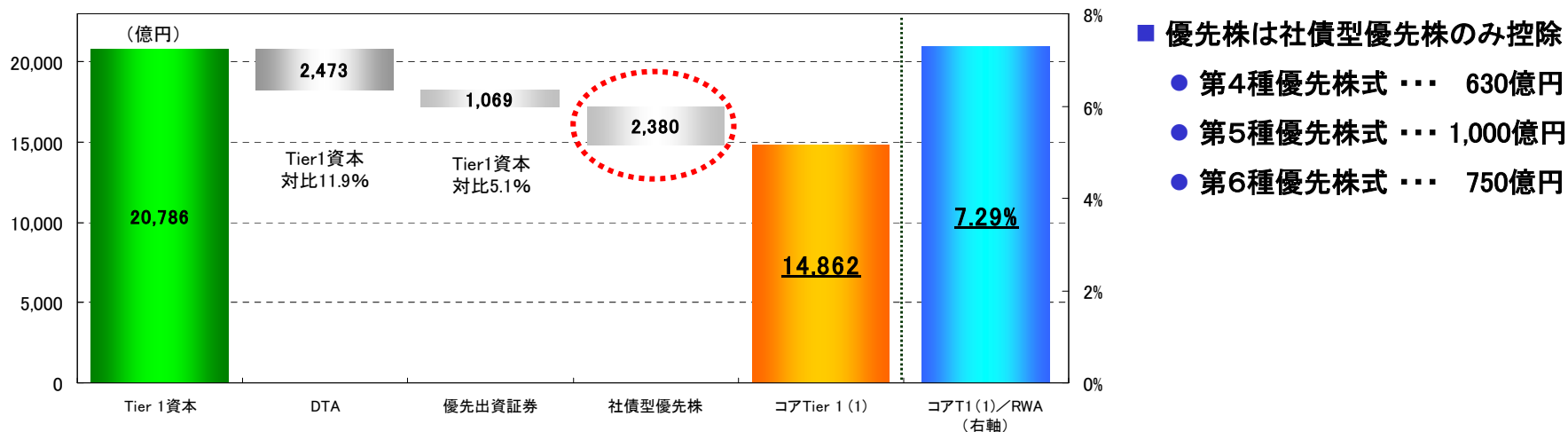
# 資本マネジメントの概要(H21年度実施分)

## 返済原資確保および資本の質、リファイナンス対応力の向上に資する資本マネジメント

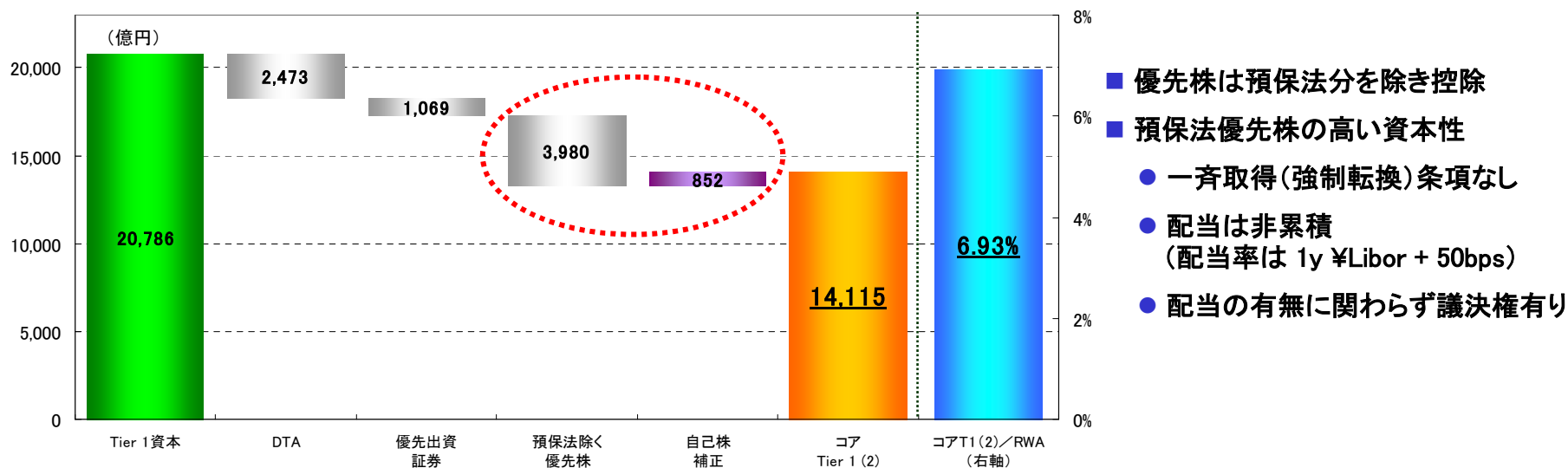
T1	<p>■ エクスチェンジ・オファーと社債型優先株調達</p> <p>■ エクスチェンジ・オファー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第9種優先株式買入消却 ⇒ 全額(3,500億円)を2,712億円で取得</li> <li>● 普通株増資(1,036億円)</li> </ul> <p>■ 第6種優先株式(社債型)発行(750億円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エクスチェンジ・オファー           <ul style="list-style-type: none"> <li>● コアT1資本の増強(1,824億円)</li> <li>● 希薄化リスクの大幅な低減</li> </ul> </li> <li>■ 第6種優先株式           <ul style="list-style-type: none"> <li>● ノンコアT1資本の増強</li> <li>● 公的資金優先株式の返済原資確保</li> </ul> </li> </ul>
UT2	<p>■ バイバック(RB/UT2債)</p> <p>■ RB 外貨建UT2債のテnderオファー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポンド建UT2債(5.986%、コール: H23/8月～)           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 買入消却額 ￡65百万(額面金額)</li> <li>➢ 買入価格 92%(額面に対し)</li> </ul> </li> <li>● ユーロ建UT2債(4.125%、コール: H24/9月～)           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 買入消却額 €300百万(額面金額)</li> <li>➢ 買入価格 90%(額面に対し)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ クレジットスプレッドの適正化を通じ、将来の調達環境の改善を実現</li> <li>■ UT2のコールスケジュール分散           <ul style="list-style-type: none"> <li>● H23～24年度のUT2コール圧力を500億円程度軽減</li> </ul> </li> <li>■ 資本の質の向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別利益47億円を計上(H21年度上期)</li> <li>● コアTier1/公的資金返済原資の確保</li> </ul> </li> </ul>
LT2	<p>■ リファイナンス+増強(RB/LT2債)</p> <p>■ 1,913億円のLT2ファイナンスを実施(国内)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機関投資家向け 1,213億円(10BL/10NC5)</li> <li>● リテール向け 700億円(8NC3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ H23/3期 LT2コール(RB: 約1,400億円)到来予定分への対応とT2資本の増強</li> <li>■ リテール劣後債(700億円)の発行を通じ規制資本調達手段の多様化を実現</li> </ul>

# コア資本の充実度に関する考察 (H22年3月末)

## コアTier1 (1)\*1: DTA純額、優先出資証券、社債型優先株を控除



## コアTier1 (2)\*1: DTA純額、優先出資証券、優先株(預保法分除く)を控除



\*1. リソナ定義による



---

## H22年3月期決算の概況

## 主要ビジネスのアップデート：H22/3期実績とH23/3期計画

## 持続的成長に向けた経営課題への取組み

## 公的資金早期返済に向けた道筋

## 【ご参考資料】

# 事業部門別管理会計の状況

## グループの事業部門別管理会計の実施状況(H22年3月期)

### ■ 「RAROC」「RVA」※1により、割当資本に対する収益性を管理

(億円、%)

グループ事業部門	収益性				健全性										
	資本コスト 控除後利益		リスク調整後 資本利益率	経費率		社内自己 資本比率	与信費用 控除後 業務純益		(実勢) 業務純益				与信 費用		
	実績 RVA *1	前年比	実績 RAROC	OHR	前年比		前年比	業務 粗利益	前年比	経費	前年比	前年比	前年比		
営業部門	53	+60	6.3%	60.8%	10.5%	1,147	+136	2,217	△560	5,651	△698	3,435	△139	1,070	△695
消費者事業	403	△453	12.1%	64.1%	10.4%	804	△400	1,088	△293	3,035	△260	1,947	+33	284	+107
ローン *2	541	△105	14.5%	26.8%	10.5%	925	△50	1,209	+57	1,651	+36	442	△21	284	+107
コーポレート事業	△461	+557	2.0%	56.6%	10.5%	229	+598	1,015	△204	2,341	△418	1,326	△215	786	△802
信託事業	111	△44	240.5%	58.8%	9.1%	113	△63	113	△63	275	△20	162	+43	0	—
市場部門	539	+368	21.5%	12.3%	19.5%	749	+344	749	+344	854	+364	105	+20	0	—
全社 *3	529	+540	8.4%	54.7%	11.6%	1,861	+421	2,930	△270	6,470	△389	3,540	△118	1,069	△691

\*1 RVAとはResona Value Added(りそな企業価値)の略。社内資本コスト控除後の純利益

\*2 ローンの計数はローン保証会社(RG,DG,KOS)を含む

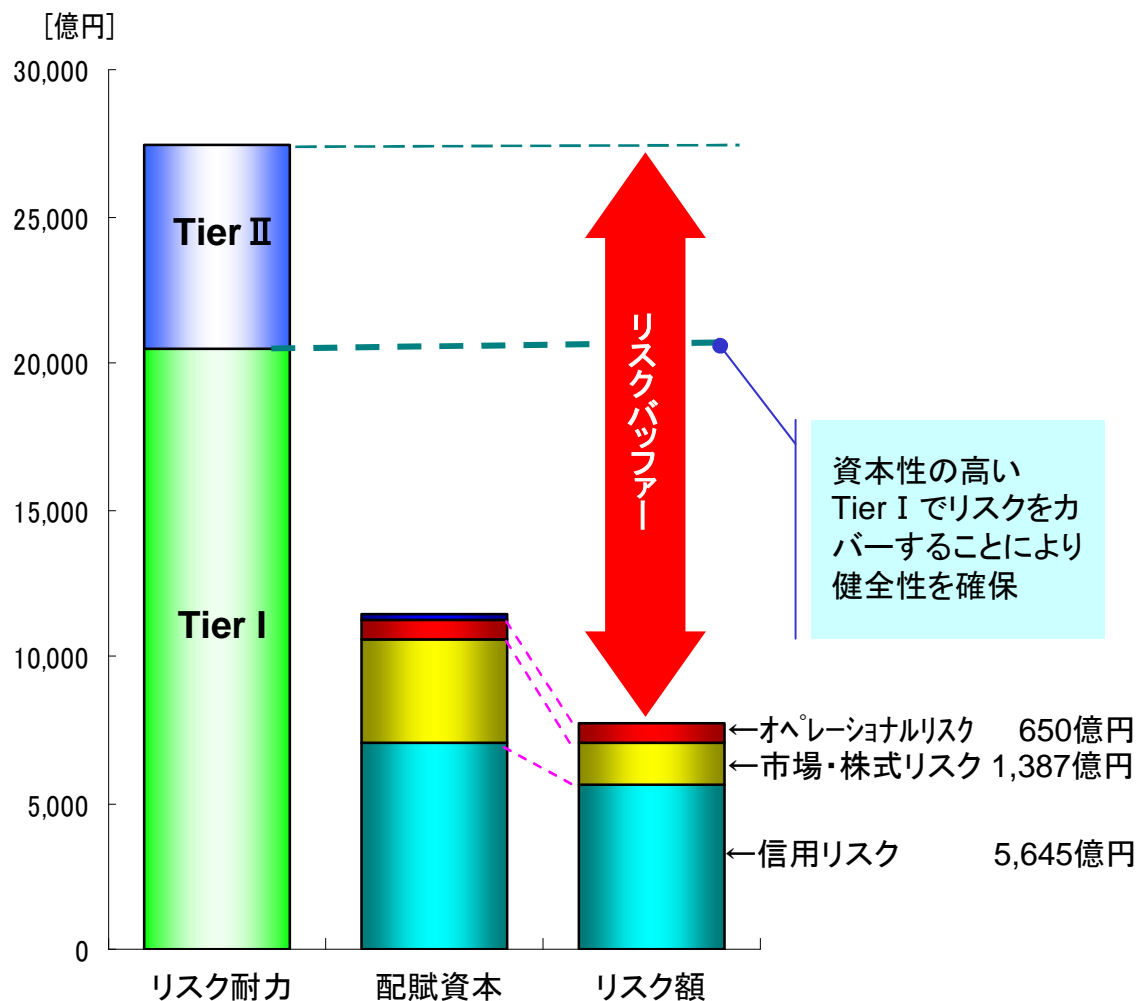
\*3 傘下銀行3行+住宅ローン保証子会社損益等

# 自己資本比率(傘下銀行各社)

国内基準 単位:億円	りそな銀行(連結) 【F-IRB】			埼玉りそな銀行(単体) 【F-IRB】			近畿大阪銀行(連結) 【SA】		
	21年3月期	22年3月期	前期比	21年3月期	22年3月期	前期比	21年3月期	22年3月期	前期比
	自己資本比率	9.99%	<b>11.03%</b>	+1.04%	10.54%	<b>11.09%</b>	+0.55%	9.67%	<b>10.71%</b>
Tier 1比率	6.35%	<b>7.42%</b>	+1.07%	6.11%	<b>6.74%</b>	+0.63%	5.53%	<b>6.32%</b>	+0.79%
自己資本額	14,881	<b>15,947</b>	+1,066	3,947	<b>4,251</b>	+304	1,783	<b>1,823</b>	+40
Tier 1	9,473	<b>10,728</b>	+1,255	2,288	<b>2,585</b>	+296	1,020	<b>1,076</b>	+55
Tier 2	5,914	<b>5,631</b>	△282	1,771	<b>1,772</b>	+0	765	<b>756</b>	△8
控除項目	505	<b>412</b>	△93	113	<b>106</b>	△7	2	<b>8</b>	+6
リスク・アセット	148,954	<b>144,469</b>	△4,485	37,413	<b>38,318</b>	+905	18,431	<b>17,019</b>	△1,412
信用リスク・アセット	140,503	<b>136,288</b>	△4,215	34,703	<b>35,611</b>	+907	17,260	<b>15,900</b>	△1,359
オペレーショナル・リスク・アセット	8,450	<b>8,180</b>	△269	2,709	<b>2,706</b>	△2	1,170	<b>1,118</b>	△52

# 自己資本対比リスク額の状況(H22年3月末現在)

- Tier I の範囲内で主要なリスク(信用・市場(含む投資株式)・オペレーショナルリスク)をコントロール
- ストレス状況下や計測困難なリスクへの備えとして、Tier I 余力・Tier II によるリスクバッファを確保



自己資本比率管理とともに、統合的リスク管理において自己資本充実度を評価

## リスク額(VaR)計測の前提条件

- 信頼区間: 99%
  - \* 99.9%水準は、ストレス状況下におけるリスク額として補完的に活用
- 保有期間
  - 信用リスク: 1年
  - 市場・株式リスク: 資産内容に応じ10日~1年
  - オペレーショナルリスク: 1年

注)リスク耐力の Tier I・II は、社内管理上の調整後のもの。

# ALM管理の高度化(コア預金内部モデルの導入)

## 流動性預金の価値の見直し

コア預金  
内部モデル  
の導入

流動性預金のうち、低利でかつ長期の安定調達となり得る部分を、よりの確に把握

### 合算バランス(RB+SR)

貸出金 23.6兆円 (64%)	流動性預金 17.8兆円(49%) コア預金 (x%)
有価証券 8.2兆円(22%)	定期性預金等 13.7兆円(37%)
現金 1.5兆円(4%)	その他3.7兆円(10%)
その他3.3兆円(9%)	純資産1.3兆円(4%)

総資産(合算): 36.6兆円

金利リスク管理の高度化  
⇒ 収益機会拡大の可能性

## コア預金の認識方法

現状: FSA監督指針の標準的な方式で管理

- H19年度からコア預金の考え方を導入
- 残高: 下記①~③のうち最小の額
  - ① 過去5年最低残高
  - ② 現残高 - 過去5年最大年間流出量
  - ③ 現残高 × 50%
- 期間は5年に均等に割振り(平均2.5年)

内部モデル (H22年4月よりRB、SRで導入)

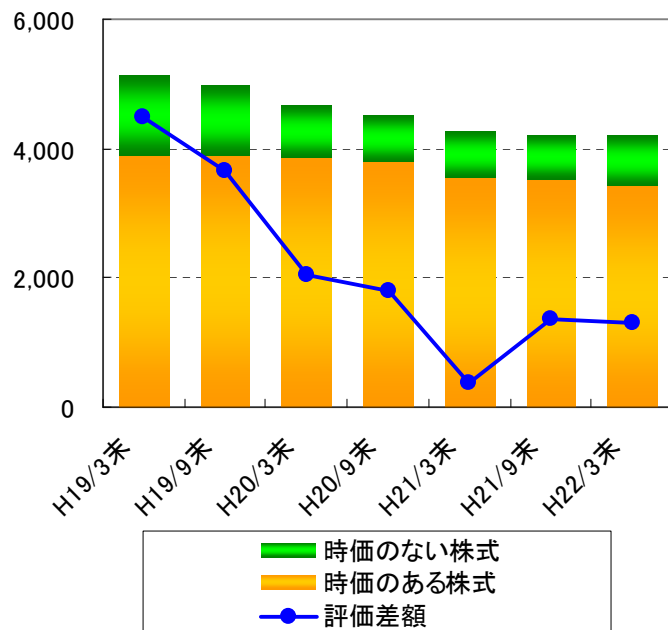
- 合理的に預金者行動をモデル化し、コア預金額を認定
- 最長満期を10年(平均5年)としてコア預金額を均等に割振り
- 主として、コア預金の満期の長期化(平均2.5年 ⇒ 平均5年)をベースとして、資産サイドでも長期の金利リスクテイクの余地が拡大

# 保有有価証券の状況

■ H22/3期末時点の時価のあるその他有価証券全体(連結ベース)の評価差額は、1,206億円の含み益

## 株式残高の推移(その他有価証券、HD連結ベース)

単位: 億円



✓ 株式売切り簿価  
H22/3期(実績): 111億円(合算ベース)

## 債券残高等の推移

【有価証券の残高(傘下銀行合算)】 (億円)

	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合計
国債	23,699	6,593	20,983	1,700	9,443	3,305	—	65,723
地方債	231	399	1,024	693	1,651	0	—	3,999
社債	2,471	4,905	3,801	79	47	372	0	11,679
株式	—	—	—	—	—	—	5,648	5,648
その他の有価証券	15	879	432	99	56	232	393	2,108
外国証券	3	797	261	3	55	232	85	1,439
うち外国債券	0	797	261	3	55	232	—	1,350
外国株式	—	—	—	—	—	—	85	85
その他の証券	11	82	171	95	0	0	307	669
合計	26,416	12,778	26,242	2,571	11,198	3,909	6,034	89,152

【保有債券等含み損益(連結ベース)】 (億円)

	H19/9末	H20/3末	H20/9末	H21/3末	H21/9末	H22/3末
国債	▲ 314	▲ 327	▲ 575	▲ 542	▲ 42	22
その他※	110	58	▲ 186	▲ 82	86	131
合計	▲ 204	▲ 269	▲ 761	▲ 624	44	153

※その他には地方債、社債、外国証券等を含む

	H19/9末	H20/3末	H20/9末	H21/3末	H21/9末	H22/3末
10年国債金利	1.675%	1.275%	1.460%	1.350%	1.290%	1.390%

【国内債券デュレーション(バンキング勘定)】 (年)

	H19/9末	H20/3末	H20/9末	H21/3末	H21/9末	H22/3末
グループ	1.7	1.7	1.6	2.0	2.3	2.3
りそな銀行	1.6	1.6	1.5	1.9	2.5	2.4

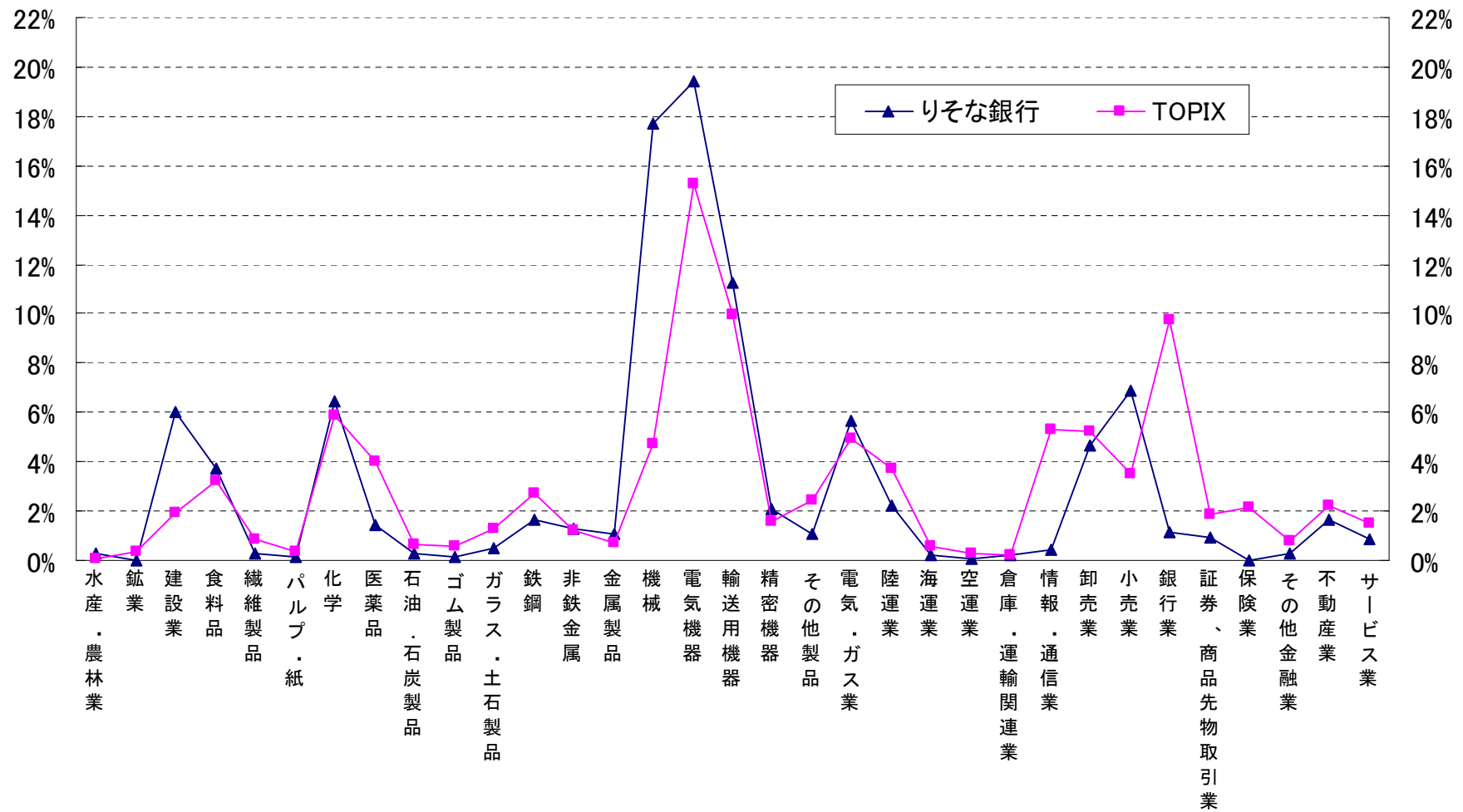
【金利感応度(BPV、国内債券)】 (億円)

	H19/9末	H20/3末	H20/9末	H21/3末	H21/9末	H22/3末
グループ	▲ 9.5	▲ 9.0	▲ 9.7	▲ 13.1	▲ 14.8	▲ 17.3
りそな銀行	▲ 5.4	▲ 4.8	▲ 4.7	▲ 7.4	▲ 8.2	▲ 9.6

【政策保有株式の評価損益がゼロとなる日経平均株価水準】 (円)

	H19/9末	H20/3末	H20/9末	H21/3末	H21/9末	H22/3末
グループ	7,000	7,500	7,500	7,000	7,000	7,300

# 保有株式 業種別ポートフォリオ (H22年3月末 RB)



# 円貨預貸金マチュリティー・ラダーの状況(RB)

## 貸出金

【21年3月末】

	6か月以内	6～12か月	1～3年	3年超	計
固定	3.2%	2.5%	5.3%	8.4%	19.3%
プライム系ほか変動	44.0%	0.5%	0.0%	0.0%	44.5%
市場金利連動型	26.8%	2.9%	3.5%	2.9%	36.1%
計	<b>74.0%</b>	<b>5.9%</b>	8.8%	11.3%	100.0%

1年以内貸出金 79.9%

【22年3月末】

	6か月以内	6～12か月	1～3年	3年超	計
固定	1.9%	1.7%	4.7%	7.9%	16.1%
プライム系ほか変動	49.3%	0.5%	0.0%	0.0%	49.8%
市場金利連動型	25.7%	2.2%	3.6%	2.6%	34.1%
計	<b>76.8%</b>	<b>4.4%</b>	8.4%	10.4%	100.0%

1年以内貸出金 81.2%

(期中変化)

	6か月以内	6～12か月	1～3年	3年超	計
固定	-1.3%	-0.8%	-0.5%	-0.5%	-3.2%
プライム系ほか変動	5.3%	-0.1%	0.0%	0.0%	5.3%
市場金利連動型	-1.1%	-0.6%	0.1%	-0.4%	-2.0%
計	<b>2.8%</b>	<b>-1.5%</b>	-0.4%	-0.9%	0.0%

1年以内貸出金 1.3%

## 預金

【21年3月末】

	6か月以内	6～12か月	1～3年	3年超	計
流動性預金	45.3%	1.9%	7.5%	7.8%	<b>62.5%</b>
定期性預金	18.6%	10.2%	5.9%	2.8%	37.5%
計	63.9%	12.1%	13.4%	10.6%	100.0%

【22年3月末】

	6か月以内	6～12か月	1～3年	3年超	計
流動性預金	44.3%	1.0%	3.7%	13.5%	<b>62.4%</b>
定期性預金	18.6%	11.1%	6.3%	1.6%	37.6%
計	62.9%	12.1%	10.0%	15.1%	100.0%

(期中変化)

	6か月以内	6～12か月	1～3年	3年超	計
流動性預金	-1.0%	-1.0%	-3.8%	5.7%	<b>-0.1%</b>
定期性預金	0.0%	0.9%	0.4%	-1.2%	0.1%
計	-1.0%	-0.1%	-3.4%	4.5%	0.0%

※ 社内管理計数をベースに算出



## 残存期間別のスワップポジション(RB)

### ■ 金利スワップ(繰延ヘッジ会計適用分)の残存期間別想定元本

(単位:億円)

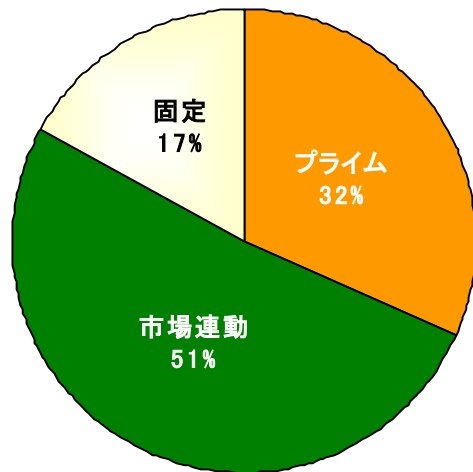
	H22/3末				H21/3末			
	1年以内	1～5年	5年超	計	1年以内	1～5年	5年超	計
スワップ固定受・変動払	1,730	3,810	10,939	16,479	1,100	4,540	9,949	15,589
スワップ変動受・固定払	1,450	3,550	5,950	10,950	600	4,000	5,900	10,500
ネット受取固定	280	260	4,989	5,529	500	540	4,049	5,089

# 法人・個人別の貸出金構成(RB)

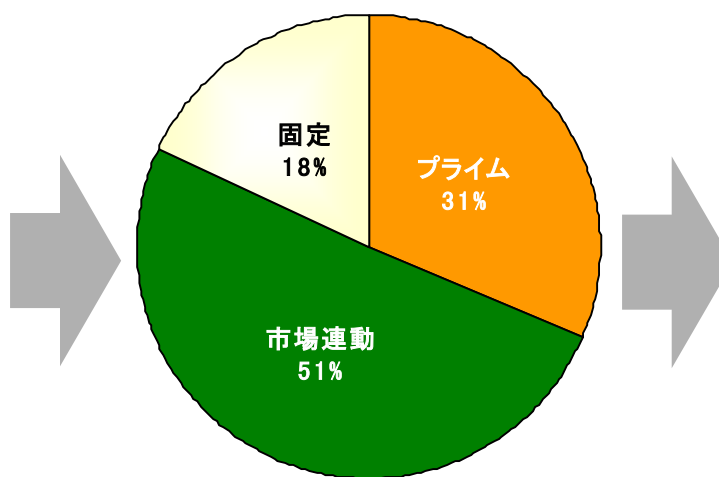
## 法人向け貸出金

市場連動貸出(法人)・・・1年以内に期日到来する固定金利(スプレッド)貸出を含む。

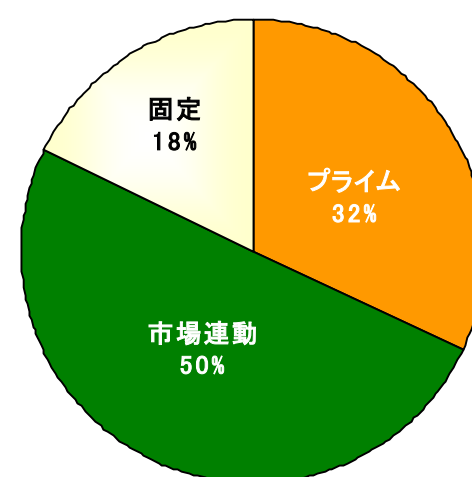
【H21年3月末】



【H21年9月末】

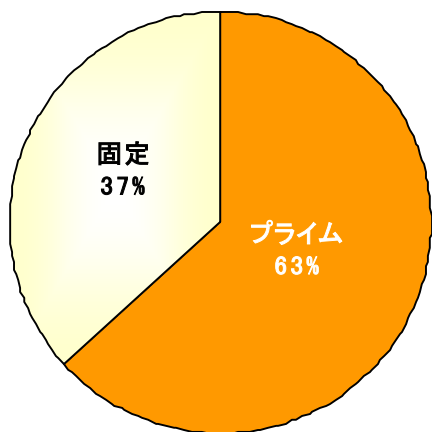


【H22年3月末】

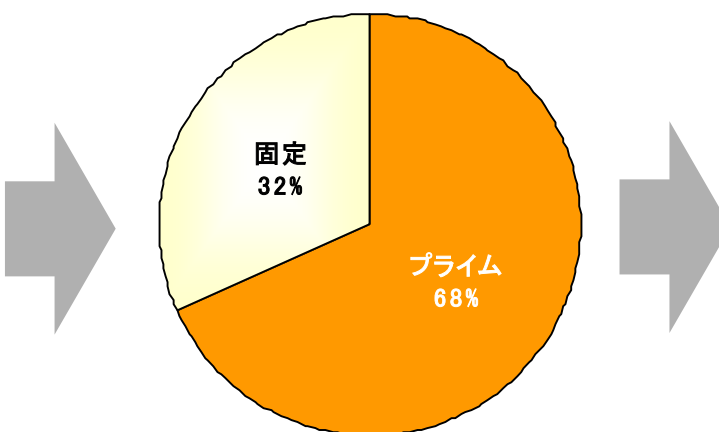


## 個人向け貸出金

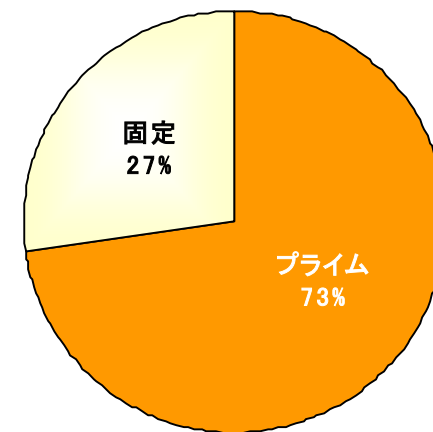
【H21年3月末】



【H21年9月末】



【H22年3月末】



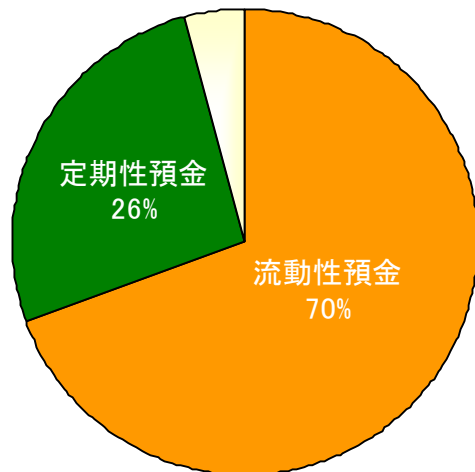
※構成比は 社内管理計数をベースの算出

# 法人・個人別の預金構成(RB)

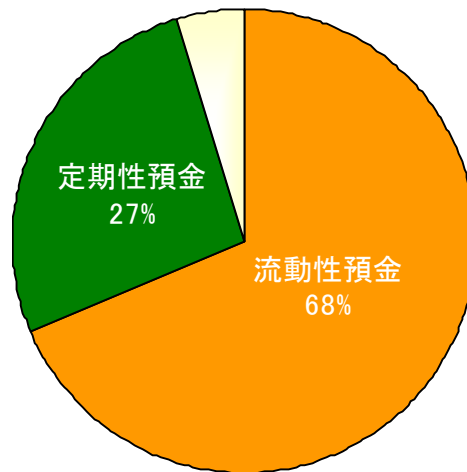
出所：決算説明資料

## 法人預金

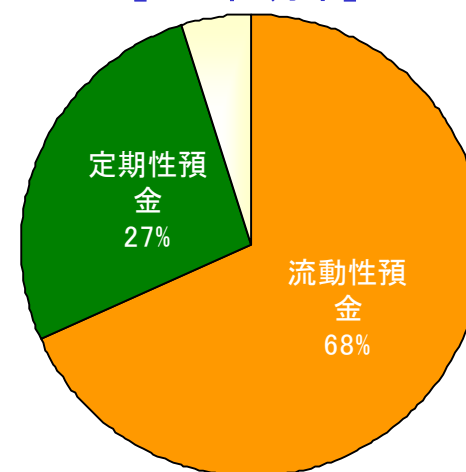
【H21年3月末】



【H21年9月末】

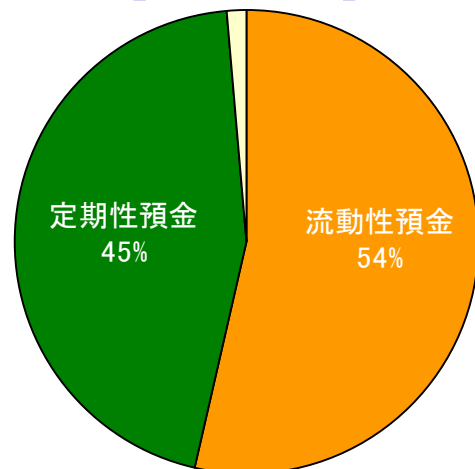


【H22年3月末】

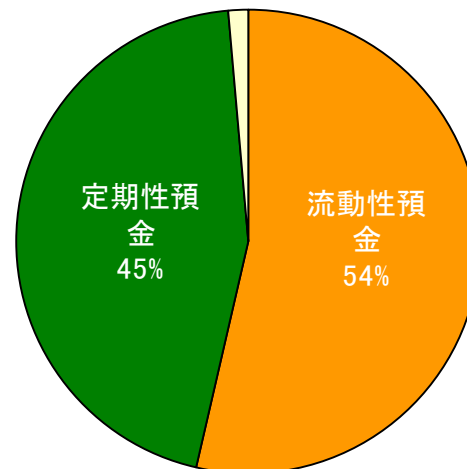


## 個人預金

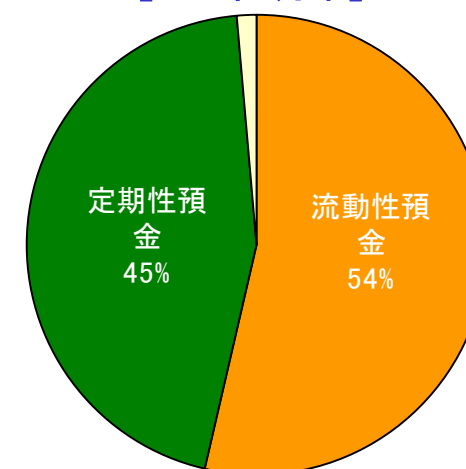
【H21年3月末】



【H21年9月末】



【H22年3月末】



# 債務者区分間の遷移状況(H22年3月期上期、RB)

与信額ベース(21年度上期の遷移状況)

		21年9月末									上方遷移	下方遷移
		正常先	要注意先	要管理先	破綻懸念先	実質破綻先	破綻先	その他	全額回収/返済	債権譲渡/売却		
21年3月末	正常先	96.7%	2.1%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	-	2.5%
	要注意先	10.5%	78.9%	3.1%	3.2%	0.2%	0.5%	3.5%	3.5%	0.0%	10.5%	7.1%
	要管理先	2.7%	14.6%	68.6%	8.6%	0.8%	0.3%	4.5%	4.5%	0.0%	17.3%	9.6%
	破綻懸念先	1.6%	6.7%	1.6%	78.9%	5.2%	2.3%	3.8%	3.8%	0.0%	9.9%	7.5%
	実質破綻先	0.1%	0.1%	0.5%	0.3%	86.0%	7.5%	5.5%	3.4%	2.1%	1.0%	7.5%
	破綻先	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	91.9%	7.6%	7.4%	0.1%	0.5%	-

- 21/3末において各債務者区分に属していた債務者が21/9末においてどの区分に属しているかを表示
- 21/3末時点の与信額をベースに算出  
21年上期中の追加与信、部分回収、償却(部分直接償却を含む)等は、反映せず
- 21/9末の「その他」は21年上期中の全額回収・返済、最終処理(債権譲渡・売却等)などでバランスシートから切り離されたもの

# 債務者区分間の遷移状況(H22年3月期下期、RB)

与信額ベース(21年度下期の遷移状況)

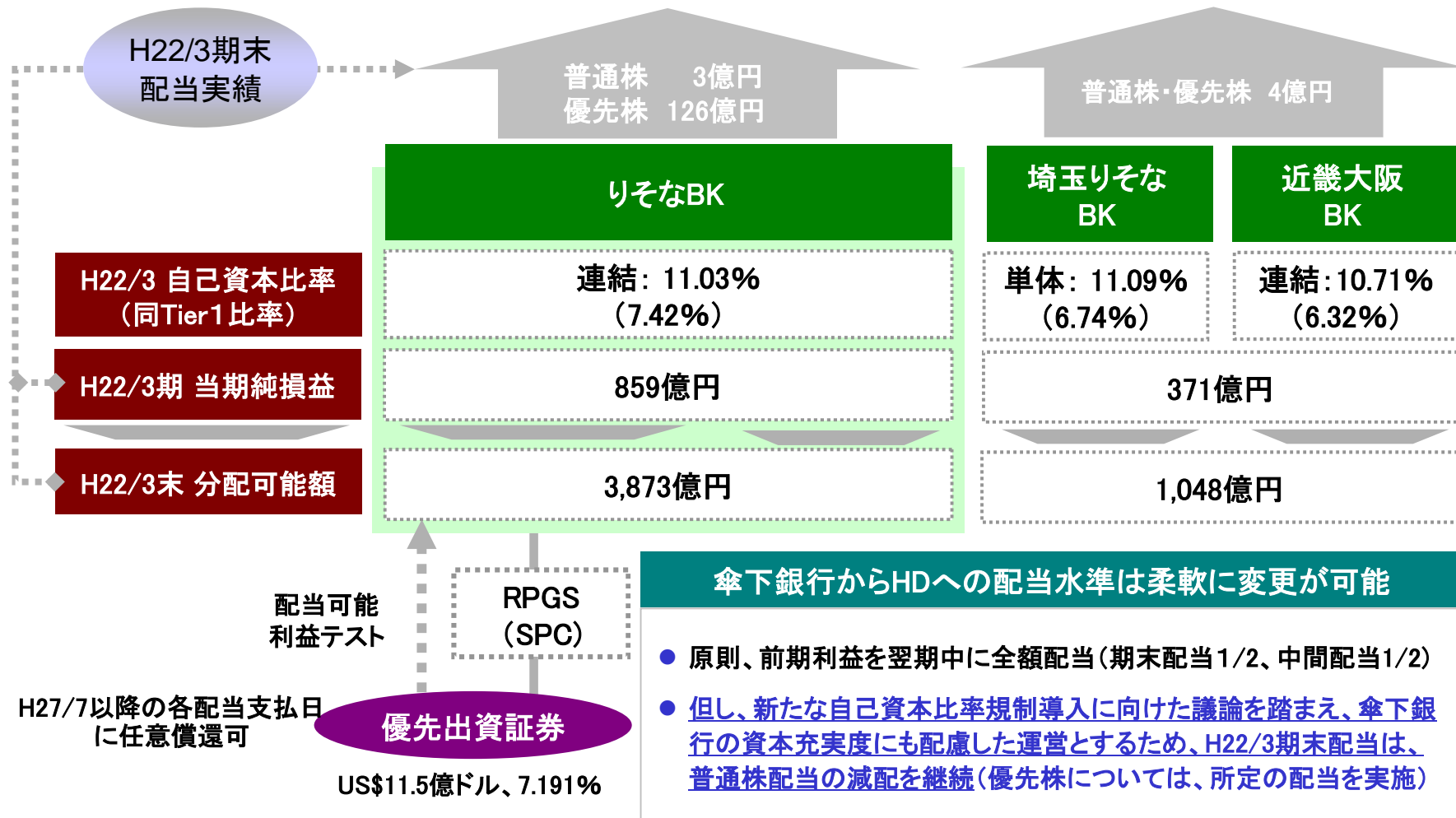
		22年3月末									上方遷移	下方遷移
		正常先	要注意先	要管理先	破綻懸念先	実質破綻先	破綻先	その他	その他			
									全額回収/返済	債権譲渡/売却		
21年9月末	正常先	97.4%	1.8%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	-	2.1%
	要注意先	6.7%	84.4%	1.8%	2.9%	0.3%	0.3%	3.7%	3.7%	0.0%	6.7%	5.3%
	要管理先	12.3%	18.2%	50.3%	14.4%	0.8%	2.8%	1.1%	1.1%	0.0%	30.5%	18.0%
	破綻懸念先	1.5%	6.4%	2.0%	68.1%	17.5%	0.5%	4.0%	4.0%	0.0%	9.9%	18.0%
	実質破綻先	0.3%	0.1%	0.1%	1.1%	81.9%	9.5%	6.9%	3.7%	3.2%	1.6%	9.5%
	破綻先	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	90.3%	9.1%	8.9%	0.2%	0.6%	-

- 21/9末において各債務者区分に属していた債務者が22/3末においてどの区分に属しているかを表示
- 21/9末時点の与信額をベースに算出  
21年下期中の追加与信、部分回収、償却(部分直接償却を含む)等は、反映せず
- 22/3末の「その他」は21年下期中の全額回収・返済、最終処理(債権譲渡・売却等)などでバランスシートから切り離されたもの

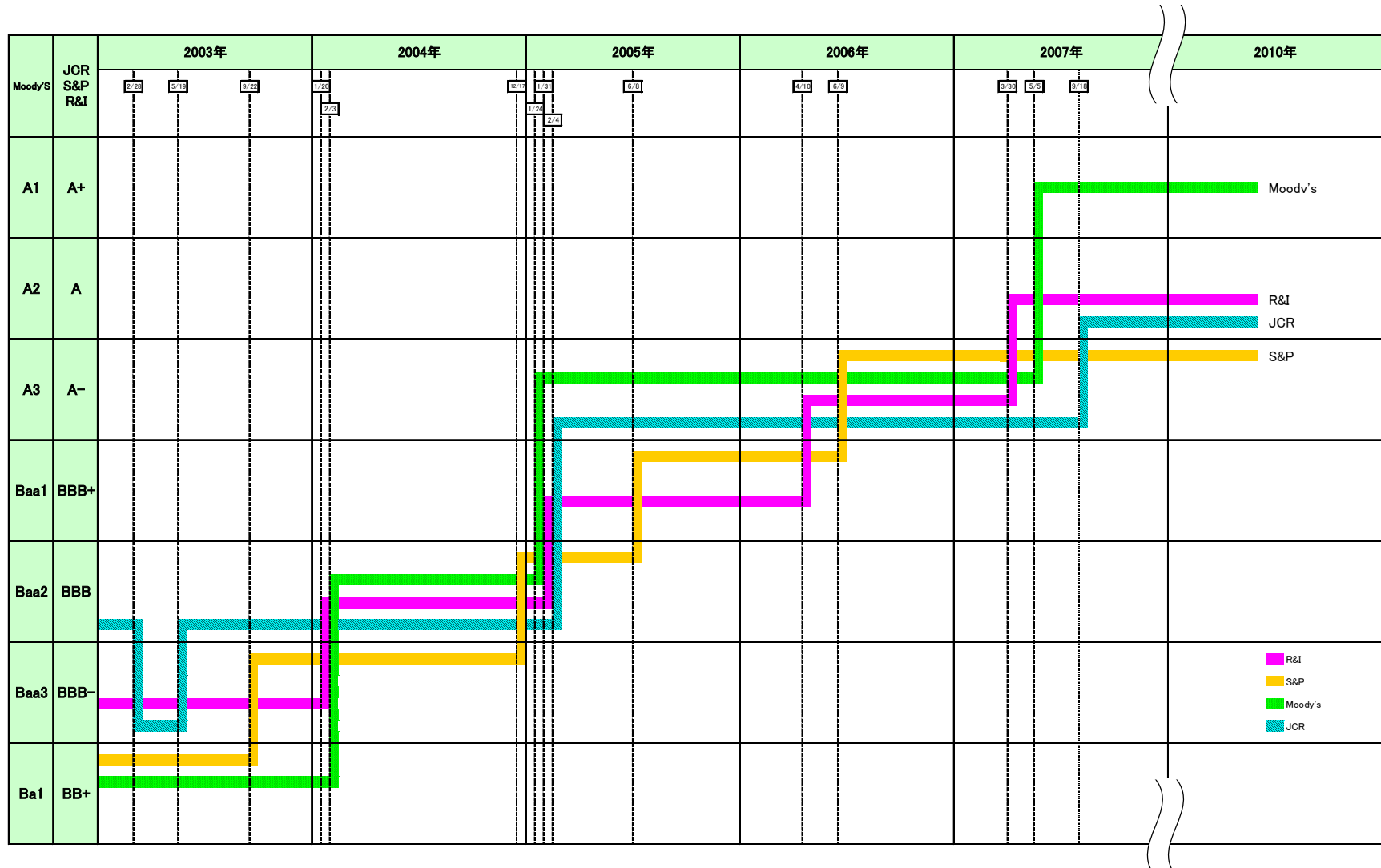
# 分配可能額及び配当方針について

H22/3期末配当額 計449億円(普通株式115億円、優先株式334億円)

りそなホールディングス (H22/3末 分配可能額: 10,434億円)



# 格付けの推移(RB、長期債務格付け)



# 当社が発行している優先株式の明細(1)

【平成22年3月31日 現在】

種類		丙種	己種
公的資金/民間資金の別		公的資金	公的資金
当初発行銀行および名称		近畿大阪銀行第1回	あさひ銀行第2回第2種
当初発行日		平成13年4月26日	平成11年3月31日
現在の株式数		12,000,000株	8,000,000株
発行価額		5,000円	12,500円
現在の発行価額の総額		600億円	1,000億円
当初発行総額		600億円	1,000億円
株主		整理回収機構	整理回収機構
優先配当金	1株当たり配当金	68.00円	185.00円
	配当総額	816百万円	1,480百万円
	利回り	1.36%	1.48%
取得請求権	取得請求可能期間	H14.1.1 H27.3.31	H15.7.1 H26.11.30
	現在の引換価額	1,667円	3,597円
	現在の引換比率	(2.999)	(3.475)
	修正日	1月1日	7月1日
引換比率の修正	引換価額の修正方向	上下	上下
	上限比率	(2.999)	(3.475)
	下限比率	---	---
	上限価額	---	---
	下限価額	1,667円	3,597円
	時価算出開始	45取引日前	45取引日前
	算出期間	30取引日	30取引日
	一斉取得	一斉取得日	H27.4.1
引換比率		5,000円/時価	12,500円/時価
時価算出開始		45取引日前	45取引日前
算出期間		30取引日	30取引日
下限価額		1,667円	3,598円



# 当社が発行している優先株式の明細(2)

【平成22年3月31日 現在】

種類		第1種	第2種	第3種	第4種	第5種	第6種
公的資金/民間資金の別		公的資金	公的資金	公的資金	民間資金	民間資金	民間資金
当初発行銀行および名称		りそな銀行第1種第一回	りそな銀行第2種第一回	りそな銀行第3種第一回	りそなHD4種	りそなHD5種	りそなHD6種
当初発行日		平成15年7月1日	平成15年7月1日	平成15年7月1日	平成18年8月31日	平成19年8月28日	平成21年12月8日
現在の株式数		275,000,000株	281,780,786株	275,000,000株	2,520,000株	4,000,000株	3,000,000株
発行価額		2,000円	2,000円	2,000円	25,000円	25,000円	25,000円
現在の発行価額の総額		5,500億円	5,635億円	5,500億円	630億円	1,000億円	750億円
当初発行総額		5,500億円	5,635億円	5,500億円	630億円	1,000億円	750億円
株主		預金保険機構	預金保険機構	預金保険機構	(株)しんきん信託銀行	第一生命保険相互会社	日本生命保険相互会社 明治安田生命保険相互会社 大同生命保険株式会社
優先配当金	1株当たり配当金(22/6)	28.68円	28.68円	28.68円	992.50円	918.75円	386.51円
	配当総額(22/6)	7,887百万円	8,081百万円	7,887百万円	2,501百万円	3,675百万円	1,159百万円
	利回り	1年円Libor+0.5% 1.434%	1年円Libor+0.5% 1.434%	1年円Libor+0.5% 1.434%	3.97%	3.675%	4.950%
取得請求権	取得請求可能期間	H18.7.1 ---	H20.7.1 ---	H22.7.1 ---	---	---	---
	現在の引換価額	1,409円	1,206円	---	---	---	---
	現在の引換比率	(1.419)	(1.658)	(---)	(---)	(---)	(---)
	引換比率の修正	修正日	8月1日	11月1日	5月1日	---	---
引換比率の修正	引換価額の修正方向	上下	上下	上下	---	---	---
	上限比率	(7.143)	(10.000)	(11.765)	---	---	---
	下限比率	---	---	---	---	---	---
	上限価額	---	---	---	---	---	---
	下限価額	280円	200円	170円	---	---	---
	時価算出開始	45取引日前	45取引日前	45取引日前	---	---	---
	算出期間	30取引日	30取引日	30取引日	---	---	---
	一斉取得	一斉取得日	一斉取得の設定なし	一斉取得の設定なし	一斉取得の設定なし	一斉取得の設定なし	一斉取得の設定なし
一斉取得					(7年後以降一定の条件を満たす場合、発行体は「取得条項」の行使が可能)	(7年後以降一定の条件を満たす場合、発行体は「取得条項」の行使が可能)	(7年後以降一定の条件を満たす場合、発行体は「取得条項」の行使が可能)
	引換比率	---	---	---	---	---	---
	時価算出開始	---	---	---	---	---	---
	算出期間	---	---	---	---	---	---
	下限価額	---	---	---	---	---	---

# 経営健全化計画(計数計画一覧)

《グループ銀行合算》

	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期		20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期
	(単位:億円)	(実績)	(実績)	(実績)	(計画)		(計画)	(単位:億円)	(実績)	(実績)	(実績)
業務粗利益	7,000	6,753	6,152	7,210	7,600	総資産 <sup>(注1)</sup>	404,760	393,716	393,368	398,800	406,300
信託報酬	413	354	287	370	400	貸出金	257,877	255,981	256,683	257,300	261,500
合同運用指定金銭信託分	69	61	44	50	50	有価証券	68,460	74,230	88,374	79,400	81,200
信託勘定不良債権処理額(A)	▲1	▲3	▲0	-	-	特定取引資産	4,944	4,660	4,676	7,000	7,000
資金運用収益	7,013	6,702	5,784	7,330	8,070	繰延税金資産(末残)	2,863	2,573	2,190	1,288	484
資金調達費用	1,641	1,378	925	2,200	2,820	総負債 <sup>(注1)</sup>	391,357	380,749	381,047	387,000	394,300
役務取引等利益	970	689	676	1,140	1,270	預金・NCD	333,026	330,101	331,920	331,200	337,100
特定取引利益	697	200	274	130	140	特定取引負債	688	135	51	-	-
その他業務利益	▲453	184	54	440	540	繰延税金負債(末残)	-	-	-	-	-
国債等債券関係損(▲)益	72	102	197	130	180	再評価に係る繰延税金負債(末残)	431	309	298	317	317
業務純益(B)+(A)+(C)	3,378	3,127	2,646	3,450	3,830	純資産 <sup>(注1)</sup>	14,715	12,617	14,599	14,098	14,508
(一般貸倒引当金繰入前信託勘定償却前)						資本金	3,988	3,988	3,888	3,988	3,988
業務純益(B)	3,379	3,047	2,733	3,450	3,830	資本準備金	4,338	4,338	4,188	4,338	4,338
一般貸倒引当金繰入額(C)	▲0	84	▲86	-	-	その他資本剰余金	887	887	1,137	887	887
経費	3,621	3,622	3,505	3,760	3,770	利益準備金	200	200	200	200	200
人件費	1,238	1,228	1,260	1,290	1,310	剰余金 <sup>(注2)</sup>	3,282	2,885	3,811	2,878	3,288
物件費	2,171	2,176	2,060	2,250	2,240	土地再評価差額金	598	419	404	431	431
不良債権処理損失額	803	1,928	1,146	710	600	その他有価証券評価差額金	1,234	▲324	828	1,188	1,188
株式等関係損(▲)益	▲458	▲376	43	40	60	(経営指標) <sup>(注3)</sup>					
株式等償却	267	257	31	-	-	資金運用利回	1.91	1.87	1.61	2.03	2.19
経常利益 <sup>(注4)</sup>	2,125	849	1,526	2,860	3,400	貸出金利回	2.18	2.18	1.95	2.31	2.48
特別利益	946	1,420	289	-	-	有価証券利回	0.89	0.85	0.61	1.04	1.14
特別損失	50	76	49	20	20	資金調達原価	1.39	1.34	1.21	1.58	1.72
法人税、住民税及び事業税	96	350	487	120	130	預金利回(含むNCD)	0.30	0.27	0.16	0.44	0.59
法人税等調整額	323	634	46	690	810	総資金利鞘	0.52	0.52	0.39	0.45	0.47
税引後当期利益	2,601	1,207	1,231	2,030	2,440	OHR	51.73	53.66	56.98	52.14	49.60

(注1)資産・負債は平残、資本勘定は末残

(注2)利益剰余金のうち、利益準備金以外のもの

(注3)OHR以外の経営指標は、旧りそな信託銀行を除いて算出

(注4)特別利益に計上される償却債権取立益等を含む

---

本資料中の、将来に関する記述（将来情報）は、次のような要因により重要な変動を受ける可能性があります。

即ち、本邦における株価水準の変動、政府の方針、法令、実務慣行及び解釈に係る展開及び変更、新たな企業倒産の発生、日本および海外の経済環境の変動、並びにりそなグループのコントロールの及ばない要因等が考えられます。

本資料に記載された将来情報は、将来の業績その他の動向について保証するものではなく、また実際の結果と比べて違いが生じる可能性があることにご留意下さい。